

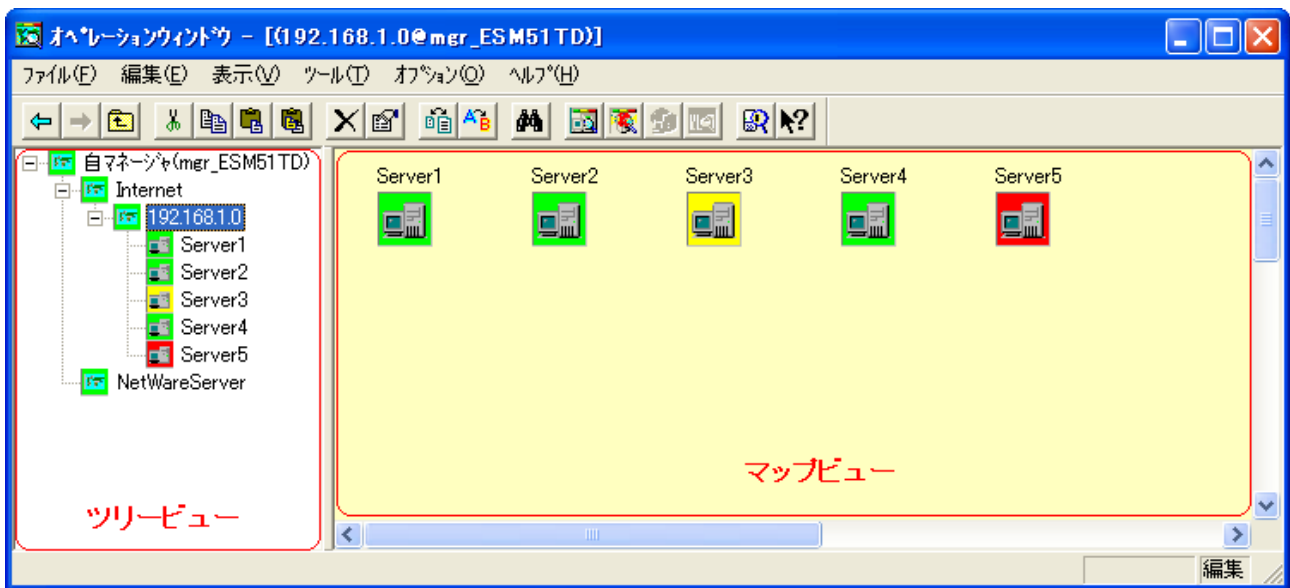
8 統合ビューア

8.1 オペレーションウィンドウ

8.1.1 画面説明

オペレーションウィンドウは管理対象機器を一覧表示するウィンドウです。

スタートメニュー [プログラム]-[ESMPRO]-[統合ビューア] より起動します。



- ツリービュー

オペレーションウィンドウの左側のウィンドウです。

各マップやアイコンの階層構造を表示します。

- マップビュー

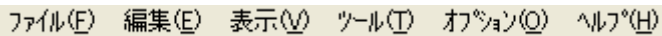
ツリービューで、マップコンポーネントタイプのアイコンを選択している場合に、オペレーションウィンドウの右側に表示されるウィンドウです。



• **インフォメーションビュー**

ツリービューで、マップコンポーネントタイプ以外のアイコンを選択している場合に、オペレーションウィンドウの右側に表示されるウィンドウです。

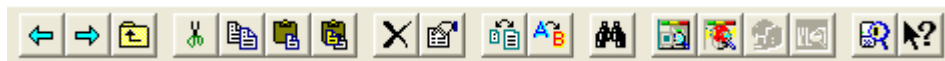
• **メニューバー**



メニューには、6種類のメニューがあります。

各メニューの説明は、「8.1.2 メニュー」を参照願います。

• **ツールバー**



ツールバーには、オペレーションウィンドウのメニューから実行できるコマンドやアイコンのポップアップメニューから実行できるコマンドのいくつかが表示されています。

これらのツールは、マウスでクリックすることによって、機能を実行することができます。

各ボタンについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.2 メニュー

次の6種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) ツール
- 5) オプション
- 6) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

8.1.2.1 ファイルメニュー

ファイルメニューには、次のものが含まれます。

- 「ファイル」・「印刷」
現在表示中のマップビュー、インフォメーションビューの内容を印刷します。
- 「ファイル」・「印刷プレビュー」
現在表示中のマップビュー、インフォメーションビューの印刷イメージを画面に表示します。
- 「ファイル」・「プロパティ」
指定したコンポーネントのプロパティ(属性)をプロパティダイアログに表示します。
表示する内容は、アイコンの種類によって異なります。表示されるプロパティについては、ツールバーのヘルプボタンを押してから、アイコンパレット上の同種のアイコンをクリックして表示させてください。
- 「ファイル」・「新しいウィンドウを開く」
オペレーションウィンドウを新たに起動します。
- 「ファイル」・「オペレーションウィンドウの終了」
オペレーションウィンドウを終了します。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.2.2 編集メニュー

編集メニューには、次のものが含まれます。

- 「編集」・「切り取り」
現在選択中のアイコンをクリップボードに保存します。

クリップボードに保存した状態では、赤い点線枠で囲まれた状態で、マップビュー上に表示されます。

[貼り付け]操作を行うと、元のマップビューおよびツリービューからアイコンが消え、現在表示しているマップビュー上にアイコンが表示されます。

注意：

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。
- 切り取り前の位置によっては、貼り付けたマップビュー上に表示されない場合があります。この場合、切り取り時の位置までマップビューをスクロールさせて、貼り付けられていることを確認してください。
- 切り取り操作の後で以下の操作を行うと、切り取り操作は取り消されます。
 - アイコンの選択状態が変更されたとき
 - 新たにコピーを行ったとき

● **「編集」・「コピー」**

現在選択中のアイコンを、クリップボード上に保存します。

貼り付けたいマップビュー上で[貼り付け]操作を行うと、コピーしたアイコンがあった場所相当の位置に表示されます(ただし、同じマップビュー上で[コピー]と[貼り付け]を連続して行うと、少しずつらして表示します)。

[切り取り]との違いは元のアイコンが削除されない点です。

注意：

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

● **「編集」・「張り付け」**

クリップボードに保存されたアイコンをマップビューに貼り付けます。

注意：

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。また、あらかじめ[切り取り]や[コピー]を選択していない場合も選択できません。

● **「編集」・「別の名前で張り付け」**

クリップボードに保存されたアイコンを別の名前で複製、登録します。

マップ型のアイコンを別名で貼り付けた場合、マップ型アイコンの配下に登録されていた各種アイコンは、コピーされません。

注意：

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。また、あらかじめ[切り取り]や[コピー]を選択していない場合も選択できません。

- 「編集」・「削除」

選択中のアイコンを削除します。

注意：

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

- 「編集」・「全選択」

現在表示しているマップビュー内のすべてのアイコンを選択状態にします。

- 「編集」・「名前の変更」

選択中のアイコンのコンポーネント名を変更します。

オペレーションウィンドウが別名表示になっている場合は、別名(タイトル)を変更します。

注意：

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

- 「編集」・「アイコンタイプの変更」

選択中のアイコンの種類を、同一種類の別のアイコンに変更します。

マップ型のアイコンからノード型のアイコン(またはその逆)には変更できません。

メニューを選択した後は、アイコンパレットで変更したいアイコンをクリックしてください。

注意：

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.2.3 表示メニュー

表示メニューには、次のものが含まれます。

選択してチェックマークを付けると、その機能が有効になります。

再度選択すると、チェックマークが解除されます。

- 「表示」・「全景」

メニューを選択してチェックマークを付けると、マップビューにマップ全体が表示されるように、マップビューのサイズにあわせて、画面が自動的に拡大/縮小します。

- 「表示」・「ツールバー」

メニューを選択してチェックマークを付けるとツールバーを表示します。

- 「表示」・「アイコンパレット」

メニューを選択してチェックマークを付けると、【アイコンパレット】を表示します。

注意：

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

- 「表示」・「別名」

メニューを選択してチェックマークを付けると、各コンポーネントの別名を表示します。プロパティダイアログで別名を設定していない場合は、コンポーネント名を表示します。

- 「表示」・「グリッド」

メニューを選択してチェックマークを付けると、グリッド線を表示します。これは、アイコンどうしを一定間隔で配置したい場合に有用です。

注意：

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

- 「表示」・「ツリービューでマップのみ表示」

チェックマークを付けると、ツリービューにマップ系アイコンのみを表示します。

注意：

- チェックマークがついていると、インフォメーションビューを表示できなくなります。

- 「表示」・「アイコンの整列」

アイコンの整列を行います。

- 名前順

マップビュー上のアイコンの並びを名前順に並びかえて表示します。

- 別名順

マップビュー上のアイコンの並びを別名順に並びかえて表示します。

別名を設定していないアイコンは、名前を別名とみなして並びかえます。

- IPアドレス順

マップビュー上のアイコンの並びをIPアドレス順に並びかえて表示します。

IPアドレスを設定していないアイコンは、ソートされたアイコンの後ろに配置されます。

- アイコンの自動整列

チェックマークをつけると、マップビュー上のアイコンの並びを現在の位置に基づいて自動的に並びかえて表示します。

注意：

- ツリービュー上の位置は整列されません。
- 整列する間隔は、オプションメニュー [カスタマイズ]-[グリッド]から編集可能です。
- 一旦整列させると、整列前の状態に戻すことはできません。
- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。
- 名前順／別名順の整列で大文字と小文字は区別しません。

- アイコンの自動整列でノード型のアイコン以外は、自動整列の対象となりません。アイコンの自動整列モードの状態、ネットワークの接続関係を登録しているマップを表示すると、登録内容が変更されてしまうので注意が必要です。

● 「表示」・「リフレッシュ」

リモートマネージャ管理下にあるコンポーネントの最新の状態を表示します。

この機能は、常時選択可能ですが、マネージャ間通信を利用している場合にのみ意味があります。何らかの理由でリモート側のマネージャと通信できなくなった場合には、オペレーションウィンドウの状態表示が、実際の状況と異なることがあります。

また、リモートマネージャが管理するマップをリモート側で編集されたときも、現在の表示が実際の状況と異なることがあります。

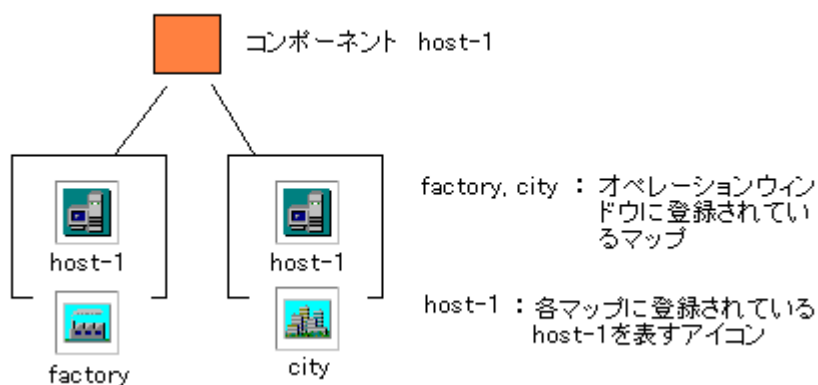
このような場合は、リフレッシュ機能を使って、最新の情報を表示させてください。

リフレッシュを定期的に行いたい場合は、オプションメニュー [カスタマイズ]-[リフレッシュ] を選択して、定期的なリフレッシュのための条件を設定してください。

コンポーネント

オペレーションウィンドウに登録されている、パソコンやワークステーションなどの管理対象機器です。各コンポーネントは、オペレーションウィンドウのアイコンとして表示されます。

オペレーションウィンドウに、同一コンポーネントを表す複数のアイコンを登録することができます。



図の場合、factoryマップ内のhost-1というアイコンと、cityマップ内のhost-1というアイコンは、同一コンポーネントを表現します。

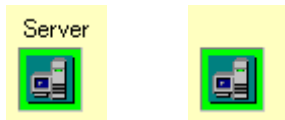
factoryマップ内のhost-1を削除しても、コンポーネントは、削除されませんが、引き続きcityマップ内のhost-1を削除すると、コンポーネントも削除されます。

● 「表示」・「ラベル」

- 表示する / 表示しない

選択中のアイコンに表示しているラベルの表示/非表示を変更します。

例) 表示する / 表示しない



注意：

- メニューを選択できない場合は、マップビューにてアイコンを選択しているか、オプションメニュー【編集許可】にチェックがついているかを確認してください。

● 背景を表示

メニューを選択しチェックマークを付けると、マップビューにて表示中のアイコンのラベルに背景を表示します。

マップビューで背景ビットマップを設定し、ラベルが見つらなくなった場合などに有用です。

例) 背景を表示する



注意：

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー【編集許可】にチェックがついているかを確認してください。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

● 【アイコンパレット】

ネットワークマップに登録できるアイコンを一覧表示します。



たとえば、以下のようなアイコンが表示されます。



マップ(map)アイコン



Hostアイコン

それぞれのアイコンについては【アイコン一覧】や、アイコンを登録した他のアプリケーションのヘルプファイルなどを参照してください。

ツールバーのヘルプボタンをクリックしてから、アイコンパレット上のアイコンをクリックすると、そのアイコンに関する説明を表示します。

アイコンパレットには、下記のボタンがあります。

[1回登録]

アイコンパレット上でアイコンを選択し、登録すると、アイコンの選択状態をクリアします(アイコンパレット左上に表示されている、選択中のアイコンの表示が消えます)。

よって、アイコンを登録するたびに、アイコンパレットで登録するアイコンの種類を選択する必要があります。

[連続登録]

アイコンパレット上でアイコンを選択し、登録しても、アイコンの選択状態が変わりません。同じ種類のアイコンを連続して登録する場合に便利です。

アイコンの選択を解除したい場合は、アイコンパレットの上部の矢印をクリックしてください。

いずれかを選択し、登録したい種類のアイコンをクリックして、マウスをオペレーションウインドウのマップビュー上に移動させると、カーソルが変化します(ツリービューの上や他のアプリケーションの上では変化しません)。

[表示設定]

【アイコンパレット表示設定ダイアログ】を起動します。

注意：

➤ 製品により本ボタンが表示されない場合があります。

● 【アイコン一覧】

マップタイプ

アイコンをダブルクリックすると、他のマップを開きます。



マップ(map)アイコン

地区やビル、フロア、ネットワークなどを表すもっとも汎用的なアイコンです。このアイコンから別のマップを開くことができます。



都市(city)アイコン

ある都市、地区などを表すアイコンです。このアイコンから別のマップを開くことができます。



工場(factory)アイコン

工場を表すアイコンです。
このアイコンから別のマップを開くことができます。



ビル(building)アイコン

ビルを表すアイコンです。
このアイコンから別のマップを開くことができます。



フロア(floor)アイコン

フロアを表すアイコンです。
このアイコンから別のマップを開くことができます。



クラスタマップ(clusterMap)アイコン

クラスタシステムを表すアイコンです。
このアイコンからクラスタシステム内の構成図(クラスタマップ)を開くことができます。



リモートマップ(rmap)アイコン

リモートのマネージャが管理しているネットワークマップを表すアイコンです。
このアイコンからマネージャ間通信機能を使って、他の ESM Base Service が管理しているネットワークマップを開くことができます。



連携マネージャマップ(cormap)アイコン

連携マネージャ(UNIX マネージャ)に対応したアイコンです。
ツリービューの最上位のレベルに位置し、連携マネージャサブマップを登録することができます。
このアイコンは、連携マネージャ登録時に、自動的に登録されます。

注意

このアイコンに対して、メニューから「別の名前で貼り付け」を選択しないでください。



連携マネージャサブマップ(cormap)アイコン

連携マネージャ(UNIX マネージャ)が管理するマップアイコンです。
通常は、連携マネージャマップアイコンの下に登録します。



ラックマウントマップ(rackmntMap)アイコン

ラックマウントシステムを表すアイコンです。
このアイコンからラックマウントシステム内の構成図(ラックマウントマップ)を開くことができます。



CMM ラックマウントマップ(cmmRack)アイコン

CMM ラックマウントシステムを表すアイコンです。
このアイコンから CMM ラックマウントシステム内の構成図(CMM ラックマウントマップ)を開くことができます。



i-PX7300 マップ(i-px7300Map)アイコン

i-PX7300 システムを表すアイコンです。

このアイコンから i-PX7300 システム内の構成図(i-PX7300 マップ)を開くことができます。



AZUSA マップ(azusaMap)アイコン

AZUSA システムを表すアイコンです。

このアイコンから AZUSA システム内の構成図(AZUSA マップ)を開くことができます。



AZUSA(azusar)アイコン

AZUSA システムを表すアイコンです。



ブレードマップ(BladeMap)アイコン

ブレードシステムを表すアイコンです。

このアイコンからブレードシステム内の構成図(ブレードマップ)を開くことができます。



AsAmA マップ(asamaMap)アイコン

AsAmA システムを表すアイコンです。

このアイコンから AsAmA システム内の構成図(AsAmA マップ)を開くことができます。



AsAmA(asama)アイコン

AsAmA システムを表すアイコンです。



ブレードマップ(sbBladeMap)アイコン

ブレード収納ユニットを表すアイコンです。

このアイコンからブレード`収納ユニット内の構成図(ブレードマップ)を開くことができます。

ノードタイプ

アイコンをダブルクリックすると、そのノードに関する各種情報を表示します。表示する内容はインストールされているESMPRO関連アプリケーションによって異なります。



Express5800(ex58full)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(フルタワー型)を表すアイコンです。
ホストコンポーネントタイプに属します。



Express5800(ex58mini)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(ミニタワー型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58desk)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(デスクトップ型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58rack)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(ラックマウント型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58mid)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(ミドルタワー型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58tfull)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(ツインフルタワー型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58tmid)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置(ツインミドルタワー型)を表すアイコンです。



Express5800(ex58other)アイコン

サーバタイプの Express5800 シリーズの装置を表す汎用的なアイコンです。



ws Express5800(ex58wfull)アイコン

ワークステーションタイプの Express5800 シリーズ(フルタワー型)の装置を表す汎用的なアイコンです。



ws Express5800(ex58wmini)アイコン

ワークステーションタイプの Express5800 シリーズ(ミニタワー型)の装置を表す汎用的なアイコンです。



ws Express5800(ex58wdesk)アイコン

ワークステーションタイプの Express5800 シリーズ(デスクトップ型)の装置を表す汎用的なアイコンです。



ws Express5800(ex58wmid)アイコン

ワークステーションタイプの Express5800 シリーズ(ミドルタワー型)の装置を表す汎用的なアイコンです。



Express5800(ex58blade)アイコン

サーバタイプの Express5800 の装置(CPU ブレード型)を表すアイコンです。



Express5800(swblade)アイコン

サーバタイプの Express5800 の装置(スイッチブレード型)を表すアイコンです。



cmmlblade(cmmlblade)アイコン

CMM ブレードを表すアイコンです。



CMM(cmm)アイコン

CMM を表すアイコンです。



cpuModule(cpuModule)アイコン

cpuModule を表すアイコンです。



ibSwitch(ibSwitch)アイコン

InfiniBand スイッチを表すアイコンです。



Express5800(ex58svb)アイコン

サーバタイプの Express5800 の装置(ブレード収納ユニット内の CPU ブレード)を表すアイコンです。



sbSvb(sbSvb)アイコン

ブレード収納ユニット内のサーバの汎用的なアイコンです。



sbEm(sbEm)アイコン

ブレード収納ユニット内の EM カードを表すアイコンです。



sbSwm(sbSwm)アイコン

ブレード収納ユニット内のスイッチモジュールを表すアイコンです。



WS Express5800(ex58wother)アイコン

ワークステーションタイプの Express5800 シリーズの装置を表す汎用的なアイコンです。



Sv98 サーバ(sv98full)アイコン

sv98 シリーズの装置(フルタワー型)を表すアイコンです。



Sv98 サーバ(sv98mini)アイコン

sv98 シリーズの装置(ミニタワー型)を表すアイコンです。



Sv98 サーバ(sv98desk)アイコン

sv98 シリーズの装置(デスクトップ型)を表すアイコンです。



Sv98 サーバ(sv98other)アイコン

sv98 シリーズの装置を表す汎用的なアイコンです。



EWS4800(ews4800)アイコン

EWS4800 を表すアイコンです。



UP4800(up4800)アイコン

UP4800 を表すアイコンです。



HP9000(**hp9000s700**)アイコン

HP9000 700 シリーズを表すアイコンです。



NX7000(**nx7000**)アイコン

NX7000 を表すアイコンです。



RS6000(**rs6000**)アイコン

RS6000 を表すアイコンです。



ルータ(**router**)アイコン

ルータを表すアイコンです。



host アイコン

パーソナルコンピュータやワークステーション、ルータ、ハブなど、ネットワークに接続される管理対象機器を表す汎用的なアイコンです。

クラスタタイプ

クラスタに関する各種情報を表示します。



クラスタ(**cluster**)アイコン

クラスタシステムを表すアイコンです。

接続線タイプ

アイコン間に接続線を引きます。



接続線(**arc**)アイコン

アイコン間を接続する線です。

アイコン上でマウスを左ボタンを押したまま、もう一方のアイコン上でリリースすると、アイコン間に接続線を引くことができます。

注意：

ESMPRO関連のアプリケーションが複数インストールされている場合などに、ここで説明するアイコン以外のアイコンが登録される場合があります。上記以外のアイコンについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

● 【アイコンパレット表示設定ダイアログ】

アイコングループを一覧から選択することで、表示したいアイコングループのみをアイコンパレットに表示することができます。



【すべてのアイコンを表示する】

このオプションを選択することで、アイコンパレットにすべてのアイコンを表示します。

【表示するアイコングループを選択する】

このオプションを選択することで、アイコンパレットに表示するアイコングループを選択することができます。

【選択しているアイコングループ】

アイコンパレットに表示するアイコングループの一覧です。

【選択できるアイコングループ】

アイコンパレットに表示できるアイコングループの一覧です。

【追加】

「選択できるアイコングループ」リストの中で選択されているアイコングループを削除し、「選択しているアイコングループ」リストに移動します。

【すべて追加】

すべてのアイコングループを「選択しているアイコングループ」リストに移動します。

【削除】

「選択しているアイコングループ」リストの中で選択されているアイコングループを削除し、「選択できるアイコングループ」リスト側に移動します。

【すべて削除】

すべてのアイコングループを「選択できるアイコングループ」リスト側に移動します。

【適用】

現在表示されている内容でアイコンパレットの設定が更新されます。

注意

アイコングループのユーザーカスタマイズはサポートしていません。

各製品にて登録されたアイコングループを利用してアイコンパレットの表示設定を行ってください。

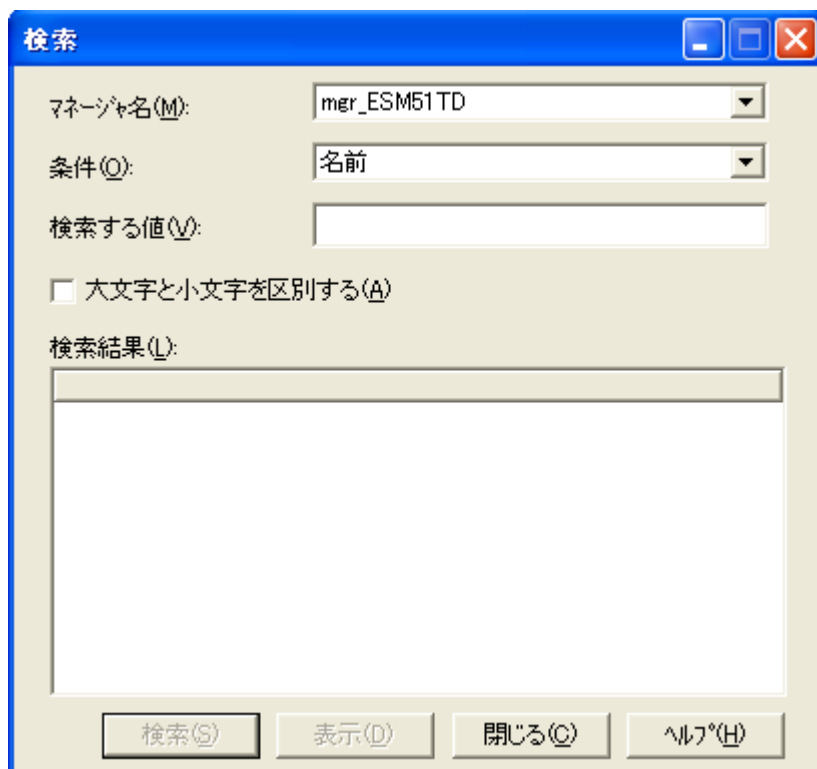
8.1.2.4 ツールメニュー

ツールメニューには、次のものが含まれます。

- 「ツール」・「検索」

オペレーションウィンドウに登録されているコンポーネントを検索します。

マネージャ間通信を行っている場合は、リモートマネージャが管理しているコンポーネントも検索できます



- [マネージャ名]

検索はマネージャ単位で行われます。

マネージャ間通信を行っている場合は、自マネージャと隣接マネージャのマネージャ名がリストに表示されます。

隣接マネージャに登録されているコンポーネントを検索する場合は、隣接マネージャのマネージャ名を選択してください。

- [条件]

条件の選択により検索方法が異なります。それぞれ検索方法は下記のとおりです。

注意：

➤ [条件]の表示はインストールされている製品により異なります。

- ・ 名前

コンポーネントに設定されている ホスト名/マップ名/コンポーネント名/インタフェース名/ネットワーク名/メディア名/クラスタ名などを検索します。

[検索する値]

検索する名前を入力してください。

[大文字と小文字を区別する]

入力した名前を大文字と小文字で区別して検索する場合は、チェックしてください。

- **別名**

コンポーネントに設定されている別名/タイトル属性を検索します。

[検索する値]

検索する別名を入力してください。

[大文字と小文字を区別する]

入力した別名を大文字と小文字で区別して検索する場合は、チェックしてください。

- **IPアドレス**

コンポーネントに設定されている IPアドレス属性を検索します。

[検索する値]

検索するIPアドレスを入力してください。

[大文字と小文字を区別する]

選択不可

- **ESMPROエージェント**

ESMPROエージェント属性が "On" に設定されているコンポーネントを検索します。

[検索する値]

"On"固定

[大文字と小文字を区別する]

選択不可

- **DMIエージェント**

DMIエージェント属性が "On" に設定されているコンポーネントを検索します。

[検索する値]

"On"固定

[大文字と小文字を区別する]

選択不可

- **[検索]**

設定された条件で検索を開始します。

- **[表示]**

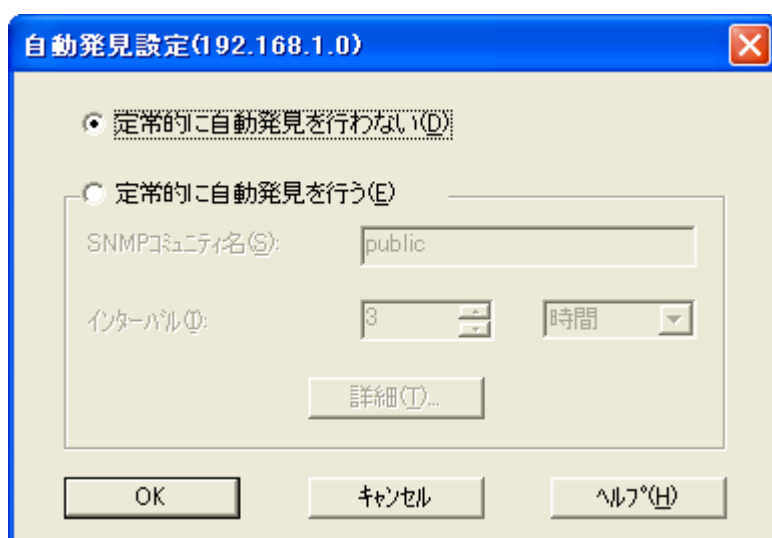
検索結果にあるコンポーネントを選択して[表示]ボタンをクリックしてください。

ツリービューで該当するマップが選択され、マップビューに該当するコンポーネントが選択状態が表示されます。

- **【閉じる】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

● 「ツール」・「自動発見」・「自動起動」

現在選択中のマップアイコンに登録されているネットワークアドレス(IPアドレス)を元に、そのネットワークアドレス配下の機器を定期的に「自動発見」し、未登録の機器が発見されれば、選択中のマップアイコン下に登録します。



定常的な自動発見を行う場合には、「定常的に自動発見を行う」を選択してください。

- **【SNMPコミュニティ名】**
SNMPコミュニティ名を設定します。複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpo”のようにカンマ(,)で続けて記述してください。ここに設定されているSNMPコミュニティ名による情報収集を可能にしている機器については、コンポーネント名などの属性情報(プロパティ)を該当機器から収集し、登録します。
- **【インターバル】**
定常的な自動発見を行うインターバルを指定します。インターバルに0を指定すると、1回だけ自動発見を行います(定常的な自動発見を行いません)。
- **【詳細】**
自動発見の詳細設定ダイアログを開きます。 (* 1)
ICMPやSNMPの再送回数や開始時刻などを変更したい場合は、「詳細」ボタンをクリックしてください。

- **[OK]**
設定を保存してウィンドウを閉じます。
- **[キャンセル]**
ウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]**
オンラインヘルプを表示します。

注意：

- メニューを選択できない場合は、マップアイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可] にチェックがついているか、インフォメーションビューを表示していないか、を確認してください。
- clusterMap/rackmntMapなどを選択している場合や、それらのマップ配下に存在するマップアイコンを選択している場合はメニューを選択できません。
- マップのループが発生している場合、ループに関係しているマップを選択しているとメニューを選択できません。
- 他のプロセスにて自動発見中の場合(定常的な自動発見を除く)は、メニューを選択できません。

(* 1) 自動発見の詳細設定

自動発見について、より詳細な設定を行います

以下の項目について、設定できます。

- **[ICMP ECHOタイムアウト値]**

ICMP ECHO要求に対する応答が、ここで設定指定した秒数以内で戻らなかった場合に、「応答がなかった」と認識します。

- ・ デフォルト値 : 1秒
- ・ 設定範囲 : 1~60秒

注意:

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[ICMP ECHO再送回数]**

ICMP ECHO要求に対して、応答がなかった場合の再送回数を設定します。

- ・ デフォルト値 : 1回
- ・ 設定範囲 : 0~10回

注意:

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[SNMP再送回数]**

SNMP要求に対して応答がなかった場合の再送回数を設定します。

- ・ デフォルト値 : 1回
- ・ 設定範囲 : 0~10回

- **[開始時刻]**

定常的自動発見を開始する時刻(現在より24時間以内の指定時刻)を設定します。

この項目に指定がなければ、定常的自動発見ダイアログで「OK」をクリックした瞬間から定常的自動発見を開始します(複数のマップで、正時に定常的自動発見を開始するように設定すると、自動発見の負荷がその時刻に集中し、ネットワークやESMPROを運用している装置が高負荷になることがあります)。

- **[再度発見したとき属性を更新する]**

チェックマークをつけると、登録済みの装置を再度発見したときに、登録されている属性と、新たに発見した属性が異なっていれば、新たな情報で更新します。

- **[DMI エージェントを発見する]**

チェックマークをつけると、自動発見で発見した機器がDMI(Desktop Management Interface)をサポートしていれば、プロパティダイアログのDMI関連のチェックボックスにチェックをつけます。

DMIイベント監視を行うDMI Event Watcherサービスのスタートアップの種類は、規定値"手動"となっております。DMIイベント監視機能をご利用いただく場合は、サービスのスタートアップの種類を"自動"に変更し、サービスを開始して下さい。

- **[SNMPv2cエージェントを発見する]**

チェックマークをつけると、SNMPv2cをサポートした機器も発見可能となります。プロパティダイアログの"SNMPバージョン"へ結果を登録します。

注意：

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[発見対象を限定する]**

チェックマークをつけた種類の発見対象のみを発見、登録します。

- **ESMPROエージェント**：ESMPRO/ServerAgentが実装されている機器のみを発見します。
- **CMクライアント**：ESMPRO/ClientManagerクライアントが実装されている機器のみを発見します。
- **UNIXエージェント**：BASECenterのエージェントが実装されている機器のみを発見します。

チェックがなければ、発見対象を限定しません。

注意：

➤ 発見対象を管理するための製品をインストールしている場合に有効となります。

- **[テンポラリマップに登録する]**

「tmp_現在のマップ名」というマップを最上位のマップ配下に登録し、発見したコンポーネントを登録します。

自動発見を設定したマップには登録されません。

- **[調査用ログを出力する]**

自動発見実行時の調査用ログを出力します。

・出力先のフォルダ

<インストール先フォルダ>¥NWORK¥TMP¥AutoDiscovery

ログは5回分まで保存され、以降、古いログは順次削除されます。

注意：

➤ [TCP/IPホストの発見]でのみ有効です。

- **[登録情報を通知する]**

コンポーネントを登録すると、アラートビューアに、登録したコンポーネント名などの情報を通知します。

注意：

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に表示されます。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

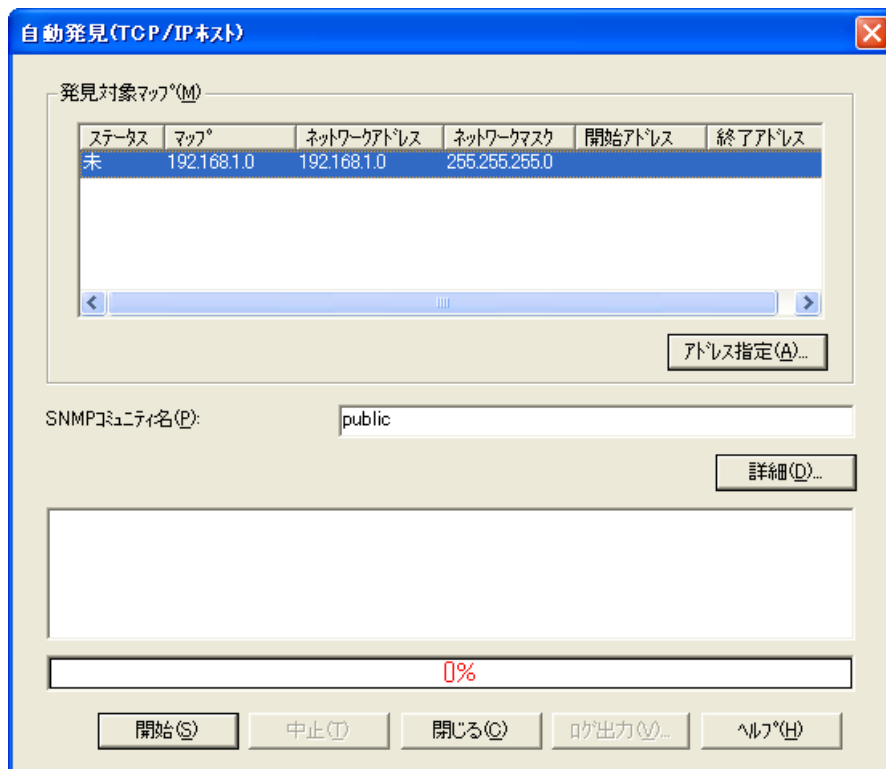
オンラインヘルプを表示します。

- **「ツール」・「自動発見」・「手動起動」・「TCP/IPホストの発見」**

現在表示中のマップビューまたは選択中のマップアイコンのマップビューに、指定した範囲内のIPアドレスを持つ、未登録のTCP/IPホストを発見し、アイコンとして登録します。

また、未登録の隣接するネットワークがあれば、Internetマップに登録し、自動発見の候補リストに追加します。

自動発見にてクライアントを発見するには、クライアントにSNMPエージェント(サービス)をインストールしておく必要があります。SNMPエージェントのインストール方法については、「4.4.1 SNMPエージェントの組み込みと設定」を参照してください。



- **[マネージャ名]**

登録済みのUNIXマネージャ名を選択すると、そのUNIXマネージャに登録されているマップに自動発見・自動登録します。

注意：

- この項目は、自マネージャダイアログで「UNIXマネージャと連携する」にチェックがついている場合のみ表示されます。

- **[発見対象マップ]**

TCP/IPホストの自動発見の候補リストです。選択中の候補に対して、自動発見を実行します。

ダイアログ表示時は、オペレーションウィンドウのツリービューで選択されているマップと、マップビューで選択されているマップアイコンのリスト項目を選択状態にして表示します。

- **ステータス**

このダイアログを開いてから、自動発見を実行したかどうかを表示します。

未 : このネットワークに対して、まだ自動発見を実行していません。

検索中 : このネットワークに対して、現在自動発見を実行しています。

完了 : 自動発見をすでに実行しています。

「完了」であっても、「開始」ボタンを押すと、再度自動発見を開始します。

中断 : 自動発見を中断しました。

「開始」ボタンを押すと、再度自動発見を開始します。

- **ネットワークアドレス**

自動発見の対象となるネットワークのネットワークアドレスです。

- **ネットワークマスク**

自動発見の対象となるネットワークのネットワークマスクです。

- **開始アドレス**

自動発見の対象となる特定の範囲のIPアドレスの開始アドレスです。

- **終了アドレス**

自動発見の対象となる特定の範囲のIPアドレスの終了アドレスです。

- **[アドレス指定]**

「アドレス指定」ダイアログ (*** 1**) を表示し、ネットワークアドレス/ネットワークマスクを指定したり、特定の範囲のIPアドレスを検索候補リストに追加します。

- **[SNMPコミュニティ名]**

対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。

複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、"public,esmpro" のようにカンマ "," で区切って設定してください。

SNMPコミュニティ名による情報収集を可能にしている機器については、コンポーネント名などの属性情報(プロパティ)を該当機器から収集し、登録します。

- **[詳細]**

「自動発見の詳細設定」ダイアログ（* 2）を表示し、SNMP再送回数や開始時刻など、より細かい設定を行いたいです。

- **表示ウィンドウ、インジケータ**

現在、どのアドレスについて探索中なのか、全探索中のどの程度が終了しているのかを表示します。

- **[ログ出力]**

表示ウィンドウの内容をファイルとして出力します。

- **[開始]**

自動発見を開始します。

- **[中止]**

自動発見を中止します。

- **[閉じる]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

（* 1）アドレス指定

TCP/IPホストの自動発見で、発見対象となるアドレスの範囲を指定します。

下記のいずれかの範囲で取得するかを選択してください。

アドレス指定

アドレス/マスク指定(A)

ネットワークアドレス(N): 192 . 168 . 1 . 0

ネットワークマスク(M): 255 . 255 . 255 . 0

範囲指定(B)

開始アドレス(S): 192 . 168 . 1 . 0

終了アドレス(E): 192 . 168 . 1 . 255

OK キャンセル ヘルプ(H)

- **[アドレス/マスク指定]**

ここで指定したネットワークアドレスおよびネットワークマスクの範囲内の未登録TCP/IPホストを発見します。

- **[範囲指定]**

ここで指定したアドレスの間の未登録TCP/IPホストを発見します。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **【キャンセル】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

(* 2) 自動発見の詳細設定

自動発見について、より詳細な設定を行います。

自動発見の詳細設定

ICMP ECHO タイムアウト値(秒)(T): 1

ICMP ECHO 再送回数(U): 1

SNMP 再送回数(R): 1

発見開始時刻を指定する(S)

開始時刻(A): 00: 00: 00

再度発見したとき属性を更新する(U)

DMZエージェントを発見する(D)

SNMPv2cエージェントを発見する(E)

発見対象を限定する

ESMPROIエージェント(U)

CMクライアント(L)

UNIXエージェント(X)

テンポラリーに登録する(Q)

調査用ログを出力する(O)

OK キャンセル ヘルプ(H)

以下の項目について、設定できます。

- **【ICMP ECHOタイムアウト値】**
ICMP ECHO要求に対する応答が、ここで設定指定した秒数以内で戻らなかった場合に、「応答がなかった」と認識します。
 - デフォルト値 : 1秒
 - 設定範囲 : 1~60秒**注意 :**
 - この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[ICMP ECHO再送回数]**

ICMP ECHO要求に対して、応答がなかった場合の再送回数を設定します。

- ・ デフォルト値 : 1回
- ・ 設定範囲 : 0~10回

注意:

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[SNMP再送回数]**

SNMP要求に対して応答がなかった場合の再送回数を設定します。

- ・ デフォルト値 : 1回
- ・ 設定範囲 : 0~10回

- **[開始時刻]**

定常的自動発見を開始する時刻(現在より24時間以内の指定時刻)を設定します。

この項目に指定がなければ、定常的自動発見ダイアログで「OK」をクリックした瞬間から定常的自動発見を開始します(複数のマップで、正時に定常的自動発見を開始するように設定すると、自動発見の負荷がその時刻に集中し、ネットワークやESMPROを運用している装置が高負荷になることがあります)。

- **[再度発見したとき属性を更新する]**

チェックマークをつけると、登録済みの装置を再度発見したときに、登録されている属性と、新たに発見した属性が異なっていれば、新たな情報で更新します。

- **[DMI エージェントを発見する]**

チェックマークをつけると、自動発見で発見した機器がDMI(Desktop Management Interface)をサポートしていれば、プロパティダイアログのDMI関連のチェックボックスにチェックをつけます。

DMIイベント監視を行うDMI Event Watcherサービスのスタートアップの種類は、規定値"手動"となっております。DMIイベント監視機能をご利用いただく場合は、サービスのスタートアップの種類を"自動"に変更し、サービスを開始して下さい。

- **[SNMPv2cエージェントを発見する]**

チェックマークをつけると、SNMPv2cをサポートした機器も発見可能となります。プロパティダイアログの"SNMPバージョン"へ結果を登録します。

注意:

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[発見対象を限定する]**

チェックマークをつけた種類の発見対象のみを発見、登録します。

- ・ ESMPROエージェント : ESMPRO/ServerAgentが実装されている機器のみを発見します。
- ・ CMクライアント : ESMPRO/ClientManagerクライアントが実装されている機器のみを発見します。

- UNIXエージェント : BASECenterのエージェントが実装されている機器のみを発見します。

チェックがなければ、発見対象を限定しません。

注意：

- 発見対象を管理するための製品をインストールしている場合に有効となります。

- **[テンポラリマップに登録する]**

「tmp_現在のマップ名」というマップを最上位のマップ配下に登録し、発見したコンポーネントを登録します。

自動発見を設定したマップには登録されません。

- **[調査用ログを出力する]**

自動発見実行時の調査用ログを出力します。

- 出力先のフォルダ

<インストール先フォルダ>¥NWORK¥TMP¥AutoDiscovery

ログは5回分まで保存され、以降、古いログは順次削除されます。

注意：

- [TCP/IPホストの発見]でのみ有効です。

- **[登録情報を通知する]**

コンポーネントを登録すると、アラートビューアに、登録したコンポーネント名などの情報を通知します。

注意：

- この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

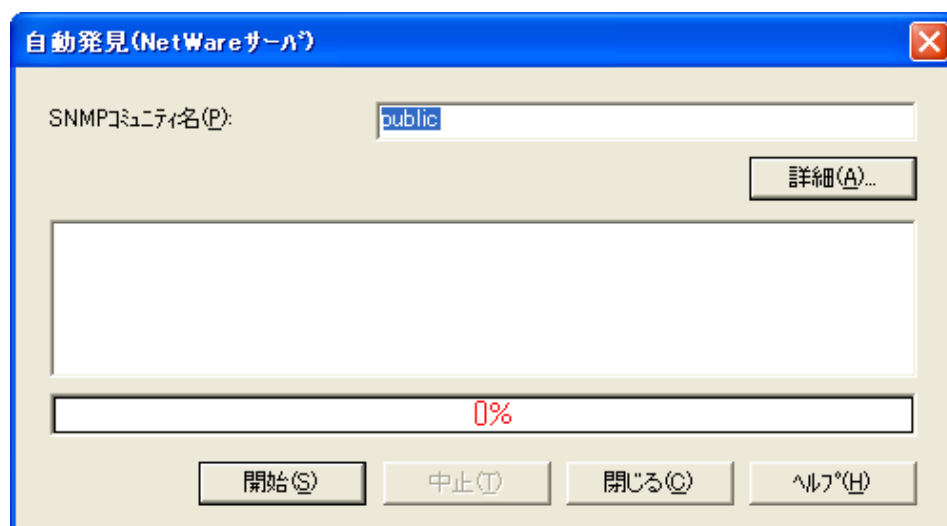
注意：

- 一度に発見可能なネットワーク機器の最大数は 65535個です。
この最大数を超えるようなネットワーク、例えば クラスA のネットワークのように、ネットワークマスクが「255.0.0.0」(発見対象となるアドレスは「*.0.0.1」～「*.255.255.255」)であるネットワークに対するTCP/IPホストの発見はサポートしていません。
- 発見対象のネットワークのネットワークマスクが「255.0.0.0」の場合、ネットワークアドレス、ネットワークマスクを一時的に変更して自動発見を行うようにしてください。
- 例えば、ネットワークのネットワークアドレス/ネットワークマスクが各々「*.0.0.0」/「255.0.0.0」であるとき、まず「*.0.0.0」/「255.255.0.0」で発見を行い、次に「*.1.0.0」/「255.255.0.0」で発見を行うといった方法で順次自動発見を行ってください。

- メニューを選択できない場合は、[オプション]-[編集許可]にチェックがついているか、インフォメーションビューを表示していないか、を確認してください。
- clusterMap/rackmntMapなどを選択している場合や、それらのマップ配下に存在するマップアイコンを選択している場合はメニューを選択できません。
- マップのループが発生している場合、ループに関係しているマップを選択しているとメニューを選択できません。
- 他のプロセスにて自動発見中の場合(定常的な自動発見を除く)は、メニューを選択できません。

● 「ツール」・「自動発見」・「手動起動」・「NetWareサーバの発見」

未登録のNetWareサーバを発見し、NetWareServerマップのマップビューにアイコンとして登録します。



● [SNMPコミュニティ名]

対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。

対象となっているネットワーク上のSNMPコミュニティ名が不明な場合は、“public”を設定してください。

複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmp”のようにカンマ(,)で続けて設定してください。

SNMPコミュニティ名による情報収集を可能にしている機器については、コンポーネント名などの属性情報(プロパティ)を該当機器から収集し、登録します。

● [詳細]

SNMP再送回数など、より細かい設定を行いたい場合に、このボタンより 詳細設定ダイアログを起動し、設定してください。

● 表示ウィンドウ、インジケータ

現在、どのアドレスについて探索中なのか、全探索中のどの程度が終了しているのかを表示します。

- **【開始】**
自動発見を開始します。
- **【中止】**
自動発見を中止します。
- **【閉じる】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

注意：

- clusterMap/rackmntMapなどを選択している場合や、それらのマップ配下に存在するマップアイコンを選択している場合はメニューを選択できません。
- マップのループが発生している場合、ループに関係しているマップを選択しているとメニューを選択できません。
- IPX/SPXプロトコルがインストールされていない場合は、メニューを選択できません。
- 64ビットWindows環境の場合は、メニューを選択できません。
- 他のプロセスにて自動発見中の場合(定常的な自動発見を除く)は、メニューを選択できません。

● **「ツール」・「アラートビューア」**

アラートビューアを起動します。

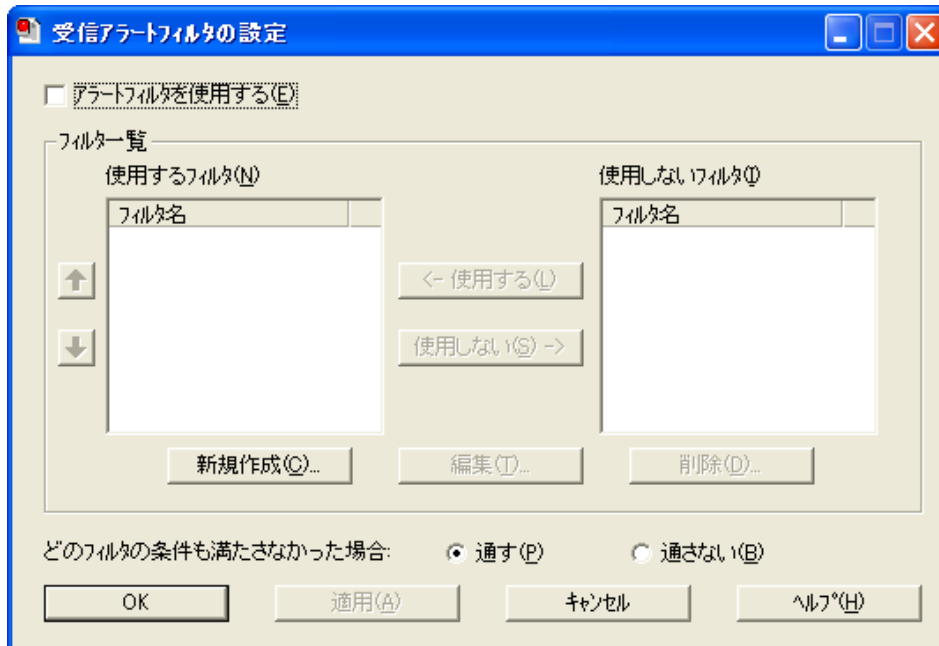
● **「ツール」・「アラートフィルタの設定」・「受信アラートフィルタの設定」**

受信アラートフィルタを使用し特定のアラートの受信を抑制することができます。

フィルタ条件を複数設定することができ、各条件を満たす場合の動作(受信する/しない)、およびすべての条件を満たさなかった場合の動作(受信する/しない)を指定することができます。また、各条件には優先順位を設定することができ、優先順位の高い順に条件判定が行われます。

[フィルタ条件として設定できる項目]

ホスト名, IPアドレス, エンタープライズ, 一般トラップコード, 特定トラップコード, ソース名, イベントID, 詳細メッセージ



- **【アラートフィルタを使用する】**
フィルタ機能を有効にするかどうかを設定します。
- **【使用するフィルタ】**
登録済みフィルタのうち、実際に使用するフィルタ名の一覧を表示します。
左に配置されている矢印ボタンで、優先順位を変更することができます。
- **【使用しないフィルタ】**
登録済みフィルタのうち、実際には使用しないフィルタ名の一覧を表示します。
- **【使用する】【使用しない】**
選択したフィルタを使用するか使用しないかを設定します。
- **【新規作成】**
新規フィルタを作成します。(フィルタ設定)
- **【編集】**
選択フィルタを編集します。(フィルタ設定)
- **【削除】**
選択フィルタを削除します。
- **【どのフィルタの条件も満たさなかった場合】**
どのフィルタの条件も満たさなかった場合の既定の動作を設定します。
- **【OK】**
設定を保存してウィンドウを閉じます。
設定はその時点から有効となり、受信アラートはフィルタリングされます。
システムの再起動は不要です。
- **【適用】**
設定を反映します。

設定はその時点から有効となり、受信アラートはフィルタリングされます。
システムの再起動は不要です。

- **【キャンセル】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

● 「ツール」・「アラートフィルタの設定」・「送信アラートフィルタの設定」

受信したアラートをマネージャ間通信のイベント通知機能を使用して別のマネージャへ転送している場合は、送信アラートフィルタ機能を使用して転送するアラートの絞り込みができます。送信アラートフィルタは転送先マネージャ毎に設定できます。

フィルタ条件を複数設定することができ、各条件を満たす場合の動作(送信する/しない)、およびすべての条件を満たさなかった場合の動作(送信する/しない)を指定することができます。また、各条件には優先順位を設定することができ、優先順位の高い順に条件判定が行われます。

[フィルタ条件として設定できる項目]

ホスト名, IPアドレス, エンタープライズ, 一般トラップコード, 特定トラップコード, ソース名, イベントID, 詳細メッセージ



- **【隣接マネージャ】**
イベント通知先として設定されている隣接マネージャの一覧を表示します。
設定対象の隣接マネージャを選択してください。
- **【アラートフィルタを使用する】**

フィルタ機能を有効にするかどうかを設定します。

- **【使用するフィルタ】**

登録済みフィルタのうち、実際に使用するフィルタ名の一覧を表示します。
左に配置されている矢印ボタンで、優先順位を変更することができます。

- **【使用しないフィルタ】**

登録済みフィルタのうち、実際には使用しないフィルタ名の一覧を表示します。

- **【使用する】【使用しない】**

選択したフィルタを使用するか使用しないかを設定します。

- **【新規作成】**

新規フィルタを作成します。(フィルタ設定)

- **【編集】**

選択フィルタを編集します。(フィルタ設定)

- **【削除】**

選択フィルタを削除します。

- **【どのフィルタの条件も満たさなかった場合】**

どのフィルタの条件も満たさなかった場合の既定の動作を設定します。

- **【OK】**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

設定はその時点から有効となり、送信アラートはフィルタリングされます。
システムの再起動は不要です。

- **【適用】**

設定を反映します。

設定はその時点から有効となり、送信アラートはフィルタリングされます。
システムの再起動は不要です。

- **【キャンセル】**

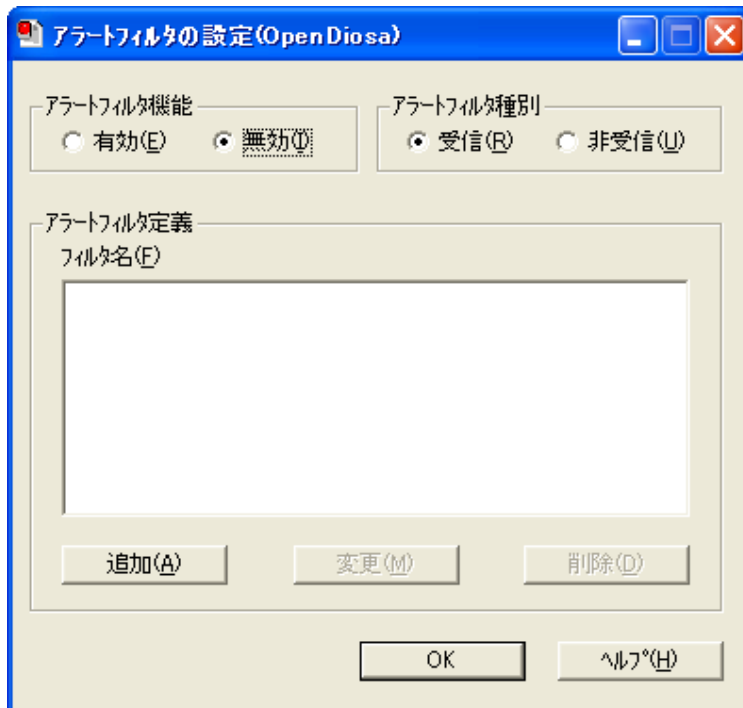
ウィンドウを閉じます。

- **【ヘルプ】**

オンラインヘルプを表示します。

- **「ツール」・「アラートフィルタの設定」・「OpenDiosa」**

OpenDiosaのアラートに関するフィルタ設定を行います。



- **[アラートフィルタ機能]**
OpenDiosaのアラートフィルタ機能を有効にするか、無効にするか選択します。
- **[アラートフィルタ種別]**
フィルタ条件により受信するか受信しないかを選択します。
"受信"選択時はフィルタ条件に一致するアラートを受信します。
"非受信"選択時はフィルタ条件に一致するアラートを受信しません。
- **アラートフィルタ定義**
 - **フィルタ名**
登録済みのフィルタ一覧です。
 - **[追加]**
フィルタを新規に追加します。(OpenDiosaフィルタ詳細設定)
 - **[変更]**
リストボックスで選択されているフィルタの内容を変更します。
(OpenDiosaフィルタ詳細設定)
 - **[削除]**
リストボックスで選択されているフィルタを削除します。
- **[OK]**
設定を反映して画面を閉じます。
設定はその時点から有効となります。
- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

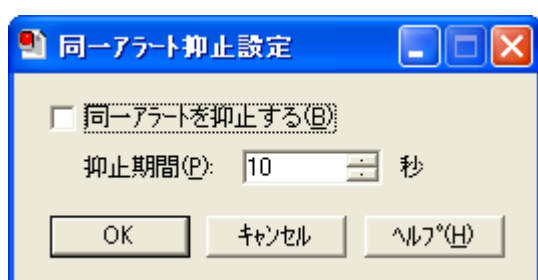
- 「ツール」・「アラートフィルタの設定」・「同一アラート抑止設定」

同一アラート抑止設定を行うと、あるアラートを受信した後、設定された抑止期間内に送信されてきた同一のアラートの受信を抑止することができます。

下記項目が同一であるものを同一アラートであると判定します。

マネージャ名, IPアドレス, エンタープライズ, 一般トラップコード, 特定トラップコード, 詳細メッセージ

※ 詳細メッセージの先頭行に発生時刻がある場合、その部分は比較対象には含まれません。



- 【同一アラートを抑止する】

同一アラート抑止機能を有効にするかどうかを設定します。

- 【抑止期間】

あるアラートを受信してから、その後送信されてきたそのアラートと同一のアラートの受信を抑止する期間を1~120秒の範囲で設定します。

- 【OK】

設定を保存してウィンドウを閉じます。

設定はその時点から有効となり、同一アラートが抑止されます。

システムの再起動は不要です。

- 【キャンセル】

ウィンドウを閉じます。

- 【ヘルプ】

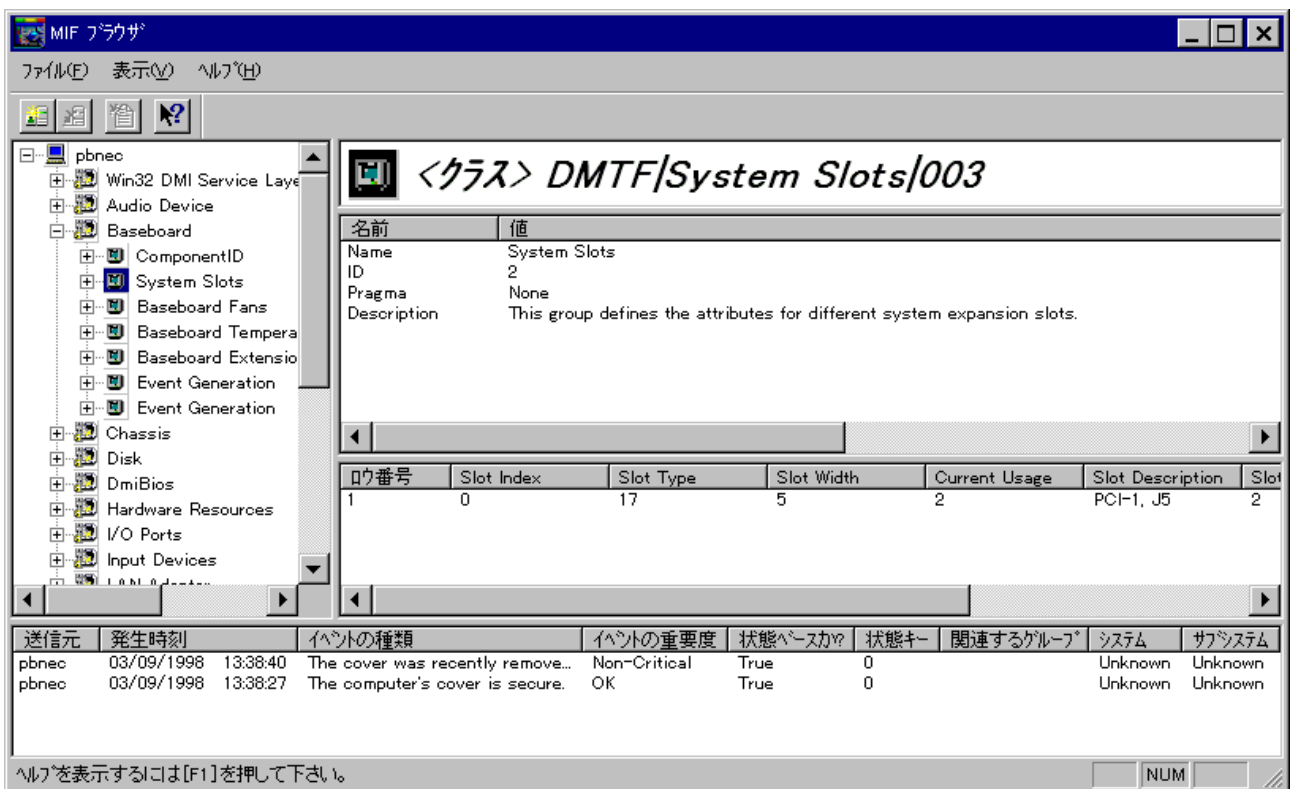
オンラインヘルプを表示します。

- 「ツール」・「MIFブラウザ」

注意：

- アイコンのプロパティで[DMIエージェント]がOnになっている場合のみ、メニューを選択することができます。

MIFブラウザは、指定されたデバイスのMIFオブジェクトを収集します。



- **[ツリービュー]**
ツリービューではツリー形式でコンポーネント、グループ、ロウ、アトリビュート名を表示します。
- **[タイトルビュー]**
タイトルビューではツリービューで選択されている名前(コンポーネント、クラス、ロウ、アトリビュート)を表示します。
クラス名が取得できたら(例えば、DMTF|Keyboard|001)表示します。
- **[ディテールビュー]**
ディテールビューではツリービューで選択されている部分の詳細を表示します。
- **[イベントビュー]**
イベントビューではイベントが発生した際に詳細を表示します。
イベント受信時に表示する各カラムの項目は以下の通りです。
コラムタイトルボックスの端を右や左にドラッグしてコラムの幅を調整します。
 - **[送信元]**
イベントの送信元サーバ名を表示します。
 - **[発生時刻]**
イベント発生時刻(現地時間)を表示します。
 - **[イベントの種類]**
発生したイベントの種類を表示します。
 - **[イベントの重要度]**

イベントの重要度を表示します。

- **[状態ベースか?]**

イベントが状態ベースかどうかを表示します。

Trueは状態ベースであることを意味し、Falseは状態ベースではないことを意味します。

- **[状態キー]**

この値はイベントが状態ベースであるときのみ、つまり上記状態ベースか?の値がTrueのときのみ意味を持ち、イベントを発行したグループの属するコンポーネントに関連したイベント状態グループのロウを特定するために必要な整数値を表示します。

- **[関連するグループ]**

このイベントに関連したグループのクラス名を表示します。

- **[システム]**

このイベントの発生源となったシステムの説明を表示します。

- **[サブシステム]**

このイベントの発生源となったサブシステムの説明を表示します。

- **「ツール」・「Remote Wake Up機能」**

ネットワーク上の休眠中のシステムを、遠隔操作にて起動します。



Remote Wake Up機能を使用するためには事前に設定が必要です。

- 対象装置をオペレーションウィンドウのマップにアイコン登録してください。
- 登録されたアイコンの右クリックメニューより、[プロパティ]を選択してアイコンのプロパティを開いてください。

- プロパティの[機能]タブの「Remote Wake Up機能 MACアドレス」と「Remote Wake Up機能 IPブロードキャストアドレス」の2つの項目を設定してください。

遠隔操作による起動を行うには、アイコンの右クリックメニューまたは、[ツール]メニューよりRemote Wake Up Toolを選択してRemote Wake Upダイアログを開いてください。

起動したいホストをホスト一覧から選択して[選択ホストを起動]ボタンを押下すると、Magic Packetフレームを送信します。

本ツールはMagic Packetフレームを送信すると終了します。

注意：

- Remote Wake Up機能を使って遠隔操作による起動を行うには、対象サーバのネットワークアダプタが、「Remote Wake Up」に対応している必要があります。詳細はシステムに添付されている資料やネットワークアダプタに添付されている資料にてご確認ください。

ルータ経由でRemote Wake Up機能を使用する場合は、ルータにダイレクトブロードキャストの設定が必要です。

ルータの詳細につきましては、担当SE・営業または保守員やルータの販売元にご確認願います。

大量のホストを一度に選択して起動させると、Windowsのソケット数の制限により、選択した全てのホストが起動しないことがあります。

その場合は、選択ホスト数を減らしてから実行してください。

- 「ツール」・「CMデータビューア」

CMデータビューアを起動します。

- 「ツール」・「WSFT」

WSFTを起動します。

- 「ツール」・「WinShare」

WinShareを起動します。

- 「ツール」・「SMS」

Microsoft Systems Management Server (SMS) を起動します。

注意：

- SMSがインストールされている場合のみ、メニューを選択することができます。

- 「ツール」・「プロセス監視」

プロセス監視を起動します。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.2.5 オプションメニュー

オプションメニューには、次のものが含まれます。

- 「オプション」・「編集許可」

選択してチェックマークを付けると、プロパティや、アイコンの位置やタイプなどを、変更可能にします。

- 「オプション」・「音声再生」

選択してチェックマークを付けると、あるマップを開いたときやある装置のインフォメーションビューを表示させたときなどに、音声ファイルを再生するようになります。

再生する音声データは、プロパティダイアログの「サウンド」で指定しているwav形式のファイルです。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「動作環境」

「動作環境」では、ESM Base Service起動中に変更可能な各種パラメータを設定します。

The screenshot shows a dialog box titled "動作環境" (Operation Environment) with a close button (X) in the top right corner. The dialog is divided into three sections:

- SNMP/ICMPパケット**: A text field labeled "再送間隔(R):" contains the value "4 4 4 4".
- SNMPトラップコミュニティ**: A text field labeled "コミュニティ名(C):" contains the value "*".
- イベント**: Two spinners are present. The first is labeled "タイムアウト時間(T):" with a value of "30" and a unit dropdown set to "秒間". The second is labeled "最大同時発行数(M):" with a value of "0" and a unit dropdown set to "個".

At the bottom of the dialog, there are four buttons: "OK", "キャンセル", "デフォルト(D)", and "ヘルプ(H)".

- [SNMP/ICMPパケット再送間隔]

管理対象機器に対して SNMP、ICMP パケットを送信する際の再送時間を設定します。

たとえば「4 4 8」とした場合、最初の送信から4秒後に再送し、さらに4秒後にもう一度再送し、さらに8秒待っても応答が無ければタイムアウトすることを示します。

・デフォルト値 : "4 4 4 4"

・設定範囲 : それぞれの数値は、1～65535 で設定してください。

・数値と数値の間には一つ以上の半角空白文字をいれてください。

・数値は16個まで有効です。17個以上の数値を記述した場合、17番目以降の数値は無視されます。

- **[SNMPトラップコミュニティ名]**

受信するSNMPトラップのコミュニティ名を設定します。

このコミュニティ名を持つSNMPトラップ以外は破棄します。

・デフォルト値 : "*"

・設定範囲 : 1023バイト以下の文字列

・何も設定しないか、"*"を設定するとすべてのSNMPトラップを受信します。

・複数のコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpo”のようにカンマ","で区切って設定してください。

- **[イベントタイムアウト時間]**

回復イベントが発生しないタイプのイベントが発生した場合に、アイコンの色を元の状態に戻すまでの時間を指定します。

・デフォルト値 : 30秒

・設定範囲 : 1~65535秒間, 1~1092分間, 1~18時間

- **[イベント最大同時発行数]**

内部的な未回復イベントキューに蓄積するイベントメッセージの個数を設定します。

・デフォルト値 : 30

・設定範囲 : 1~65535秒間, 1~1092分間, 1~18時間

注意 :

- 未回復イベントメッセージはメモリ中に蓄積されますので、多くの未回復イベントメッセージの発行を許した場合、システムのメモリを食いつくす危険性がありますので注意してください。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[デフォルトボタン]**

すべての設定をインストール時の値に戻します。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「自マネージャ」

「自マネージャ」では、システムの再起動を伴う、マネージャに関する設定を行います。

自マネージャ

マネージャ名(M): mgr_ESM51TD

管理者名(M):

設置場所(L):

ポート番号(P): 8806

SNMPトラップ受信方法

独自方式を使用する(Q)

SNMPトラップサービスを使用する(S)

UNDXマネージャと連携する(L) 設定(E)

最大再送アラート数(Q): 500

OK キャンセル ヘルプ(H)

- **[マネージャ名]**

収集した情報を表示するマネージャの名前を設定してください。

・デフォルト値 : "mgr_コンピュータ名"

・設定範囲 : 63文字以内の英数文字列

・ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)も使用することができます

- **[管理者名]**

マネージャを管理する人の名前を設定してください。

・デフォルト値 : 空白

・設定範囲 : 255バイトの文字列。(日本語使用可)

- **[設置場所]**

マネージャの設置場所(住所、ビル名など)を設定してください。

・デフォルト値 : 空白

・設定範囲 : 255バイトの文字列。(日本語使用可)

- **[ポート番号]**

自マネージャ側で、隣接マネージャとTCP/IP通信する際に用いられるポート番号を表示・設定します。

通常、このポート番号を変更する必要はありません。

・デフォルト値 : 8806

・設定範囲 : 設定可能なポート番号は、5001～65535です。

- **[SNMPトラップ受信方法]**

Windows の SNMPサービスがインストールしてあるシステムでは、この項目が選択可能となります。

通常は、「独自方式を使用する」を選択してください。

ESMPRO以外にSNMPトラップを受信するアプリケーションがインストールされている場合は、「SNMPトラップサービスを使用する」を選択し、WindowsのSNMP Trap Serviceを使用してSNMPトラップを受信します。

ESMPRO、およびその他のアプリケーションでSNMPトラップを受信できるようになります。

この場合、その他のアプリケーションでも Windows の SNMP Trap Serviceを使用してSNMPトラップを受信する設定となっていなければいけません。

Windows の SNMP Trap Service を使用することができないアプリケーションとESMPROは共存できません。

設定変更を行なうには、Administratorsの権限をもつユーザーでログインする必要があります。

- **[UNIXマネージャと連携する]**

チェックマークをつけると、UNIXマネージャとの連携が可能になります。

連携する場合は、「設定」ボタンを押して、UNIXマネージャの設定を行ってください。

注意：

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[最大再送アラート数]**

アラート再送機能で使用するアラート最大再送アラート数を指定します。

アラート再送機能は、マネージャ間通信が接続されていないなどの理由でアラート転送に失敗した場合に、指定された回数、周期でリトライを行う機能です。

この時、再送用に保持できるアラート数をここで指定します。

再送用として保持すべきアラートがここで指定した最大数を超えた場合は、最も古いアラートが新たに受信したアラートにより上書きされます。

・デフォルト値 : 500

・設定範囲 : 1~1000

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

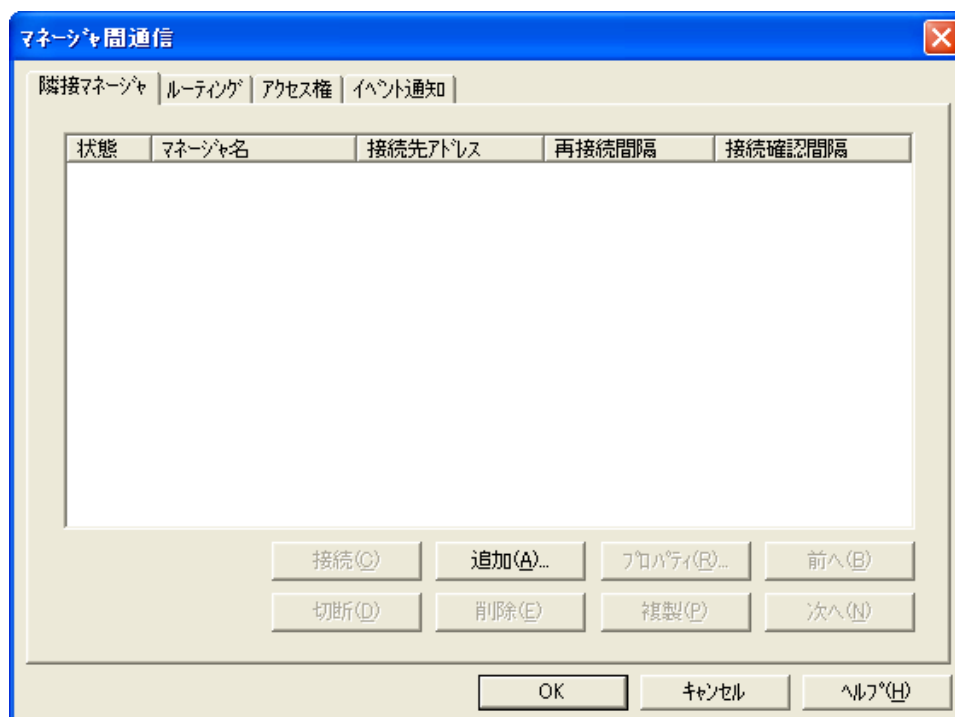
注意：

➤ 自マネージャの設定変更は次回のオペレーティングシステムの再起動から有効になります。

- SNMPトラップ受信方法として「SNMPトラップサービスを使用する」を選択後、SNMPサービスをアンインストールすると、ESM Base Serviceを起動できなくなりますので、SNMPサービスをアンインストールしないでください。

- 「オプション」・「カスタマイズ」・「マネージャ間通信」（隣接マネージャタブ）

設定されている隣接マネージャを一覧表示し、また隣接マネージャを追加、編集、削除します。



- 【接続】

選択中の「未接続」のエントリの接続を実行します。

隣接マネージャが起動していない場合など、なんらかの理由で接続できない場合があります。

隣接マネージャと自動接続するように設定されていればこの項目は選択できません。

- 【切断】

選択中の「接続中」または「接続待ち」のエントリの接続の切断を実行します。

隣接マネージャと自動接続するように設定されていればこの項目は選択できません。

- 【追加】

選択中の項目に新規のエントリを追加します。

選択中の項目によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

- 【削除】

選択中のエントリを削除します。

- 【プロパティ】

選択中のエントリの内容を更新します。

選択中のエントリの種別によってそれぞれに応じた設定ダイアログが表示されます。

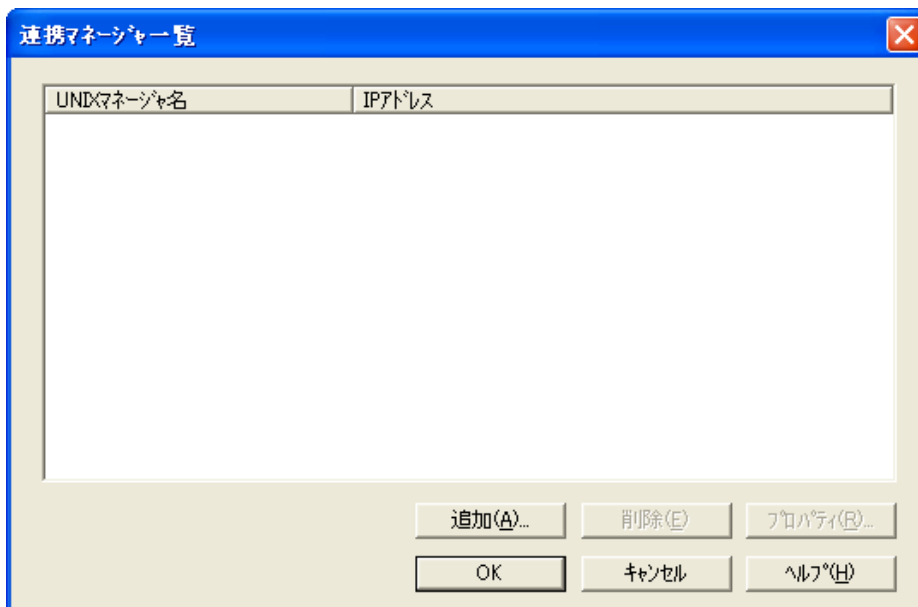
- **[複製]**
選択中のエントリを複製します。
- **[前へ]/[次へ]**
択中のエントリをひとつ前のエントリと入れ換えます。
ルーティングエントリとアクセス権エントリは、エントリの順番に意味があります(最初に表れた順に評価される)ので、エントリの順番を変更したい場合はこれを実行してください。
- **[OK]**
マネージャ間通信の設定を反映した後、終了します。
- **[キャンセル]**
ウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]**
オンラインヘルプを表示します。

● **「オプション」・「カスタマイズ」・「連携マネージャ一覧」**

注意：

- UXServerManagerがインストールされている場合のみ、メニューを選択することができません。

登録されている連携マネージャ(UNIXマネージャ)の一覧表示、追加、編集、削除を行います。連携マネージャを新規に登録すると、オペレーションウィンドウの最上位(top)マップに、cormapアイコンが自動登録されます。



- **[UNIXマネージャ名]**
連携マネージャのUNIXマネージャ名を表示します。

- **[アドレス]**
UNIXマネージャのIPアドレスを表示します。
- **[追加]**
マネージャ設定ダイアログを表示し、連携マネージャを追加登録します。
- **[プロパティ]**
マネージャ設定ダイアログを表示し、選択している連携マネージャのプロパティを表示・編集します。
- **[OK]**
設定を保存してウィンドウを閉じます。
- **[キャンセル]**
ウィンドウを閉じます。
- **[ヘルプ]**
オンラインヘルプを表示します。

注意：

- 連携マネージャを追加登録した場合は、連携マネージャ一覧ダイアログを一旦閉じた後に、追加登録した連携マネージャのプロパティが変更可能になります。

- **「オプション」・「カスタマイズ」・「アイコンタイプ設定」**

アイコンのイメージ、ポップアップメニューなどをカスタマイズします。また、アイコンに対応したコンポーネントの属性(プロパティ)などもカスタマイズできます。



システムが最初から提供しているアイコンタイプ、およびそのポップアップメニューは、削除することはできませんが、ビットマップイメージを置き換えたり、ポップアップメニュー、プロパティを追加することはできます。

- **[アイコンタイプ]**

現在、システムに登録されているアイコンタイプを一覧表示します。

ツリーの下位のアイコンタイプに位置するアイコンタイプは、上位のアイコンタイプのプロパティやメニューなどを継承します。

- **[追加]**

アイコンタイプ詳細設定ダイアログを表示して、アイコンタイプを新たに登録します。

- **[編集]**

アイコンタイプ詳細設定ダイアログを表示して、現在選択中のアイコンタイプを編集します。

- **[削除]**

現在選択中のアイコンタイプを削除します。

システムが提供しているアイコンタイプは削除することはできません。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

- **「オプション」・「カスタマイズ」・「ツール設定」**

オペレーションウィンドウのツールメニューにメニュー項目を追加します。

ここで登録したメニュー項目は、システムが提供しているメニュー項目の下に追加されます。



- **[メニュー項目]**

現在ユーザが登録したメニュー項目を表示します。

- **[テキスト]**

メニューのラベル名を表示・設定します。

入力できる文字列は、半角文字で78文字分までです。

- **[コマンド]**

メニューに対応するコマンド名を表示・設定します。

組み込みコマンドを指定したり、直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして、希望するコマンドを選択してください。

入力できる文字列は、半角文字で255文字までです。

ウィンドウアプリケーションの場合は、%Xを、コンソールアプリケーションの場合は、%Kをコマンドの前につけてください(→置換文字列の使用例)。

[ファイルを開く]

「ファイルを開く」ダイアログを開きます。

選択したファイルをコマンド欄に設定します。

[MIBモニタコマンド]

MIBモニタコマンド設定ダイアログを開きます。

設定した条件で定期的にMIBを収集、表示します。

自動的に対応するコマンド、引数がコマンド欄、引数欄に設定されます。

注意：

➤ この項目は、ESMPRO/Netvisorがインストールされている場合に有効です。

- **[引数]**

「コマンド」に渡す引数を表示・設定します。

直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして、希望する置換文字列を選択してください。

入力できる引数は、半角文字で255文字までです。

- **[説明文]**

「ツール」メニューを探索中、マウスカーソルなどでこのメニューを反転させているときに、ステータスバーに表示する文字列を表示・設定します。

入力できる文字列は、半角文字で255文字分までです。

- **[条件]**

このメニューが「ツール」メニュー上で選択可能になる条件を設定します。

例えば、「あるプロパティが設定されている場合に、メニューが選択可能になる」、という設定が可能です。

この設定がなければ、このメニューは、常時選択可能です。(→条件の詳細)

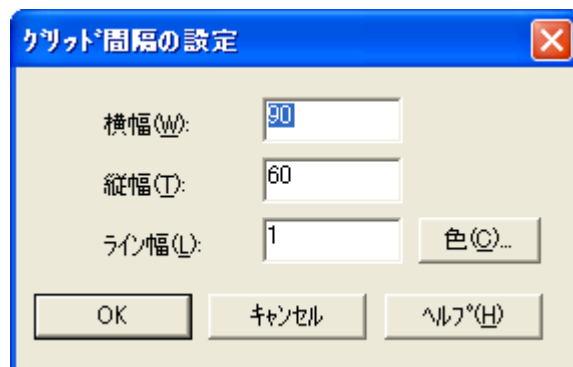
- **[ツールバーに表示する]**

チェックマークを付けると、このコマンドに対応するボタンをツールバーに登録・表示します。

- **【追加】**
メニューを追加する場合は、この「追加」ボタンをクリックして、追加するメニュー、コマンドなどを登録します。
- **【削除】**
メニューを削除する場合は、削除したいメニューを選択して、この「削除」ボタンをクリックします。
- **【上へ】**
現在選択中のメニューを、ひとつ上に移動します。
- **【下へ】**
現在選択中のメニューを、ひとつ下に移動します。
- **【OK】**
設定を保存してウィンドウを閉じます。
- **【キャンセル】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

● **「オプション」・「カスタマイズ」・「グリッド間隔の設定」**

[表示]-[アイコンの整列]でアイコンを整列させる場合の整列間隔を調整します。
グリッド線を表示させるには、[表示]-[グリッド]を選択してください。



- **【横幅/縦幅】**
グリッド線の間隔(ドット数)を設定します。50～999を設定してください。
・デフォルト値
 横幅 : 90ドット
 縦幅 : 60ドット
- **【ライン幅】**
グリッド線の線幅を設定します。1～99を設定してください。
・デフォルト値 : 1ドット

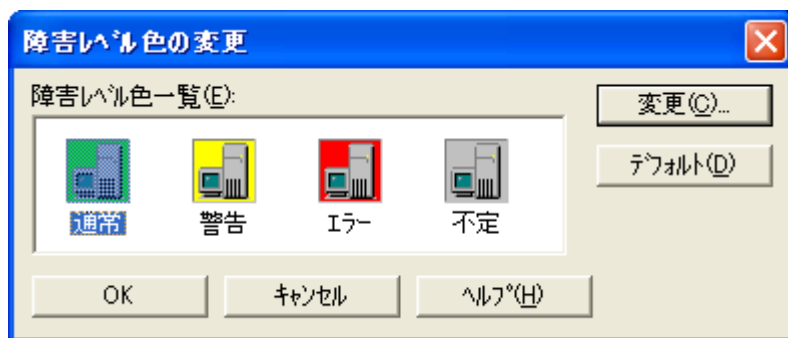
- **[色]**

グリッド線の色を設定します。

・デフォルト値 : 灰色

- **「オプション」・「カスタマイズ」・「障害レベル色の変更」**

障害発生時のアイコンの色を指定します。



- **[障害レベル色一覧]**

各障害レベルに設定されている色の一覧です。

- **[変更]**

障害レベルに設定されている色を変更することができます。

色を変更したい障害レベルのアイコンを選択して[変更]ボタンをクリックしてください。

「色の設定ダイアログ」が表示されますので設定したい色を選択して変更してください。

- **[デフォルト]**

設定をインストール時の状態に戻します。

- **[OK]**

設定を保存してウィンドウを閉じます。

- **[キャンセル]**

ウィンドウを閉じます。

- **[ヘルプ]**

オンラインヘルプを表示します。

- **「オプション」・「カスタマイズ」・「マップの背景色」**

マップビュー、インフォメーションビューの背景色を設定します。

「色の設定ダイアログ」が表示されますので色を選択して設定してください。

- **「オプション」・「カスタマイズ」・「リフレッシュ」**

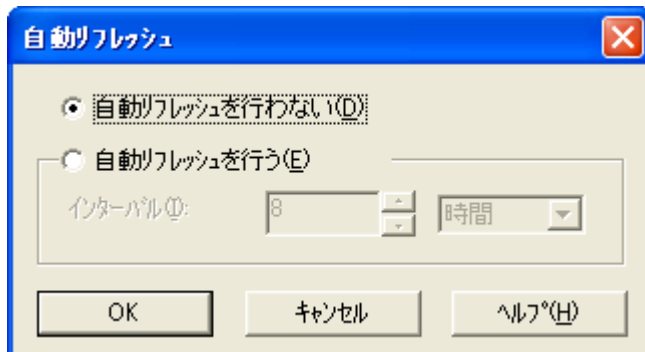
リモートマネージャ管理下にあるコンポーネントの状態を定期的に取得、表示します。

何らかの理由でリモート側のマネージャと通信できなくなった場合には、オペレーションウィンドウの状態表示が、実際の状況と異なることがあります。

また、リモートマネージャが管理するマップをリモート側で編集されたときも、現在の表示が実際の状況と異なることがあります。

このような場合は、リフレッシュ機能を使って、最新の情報を表示させてください。

現在の状態を直ちにオペレーションウィンドウに反映させたい場合は、表示メニュー [リフレッシュ]を選択してください。



- **【自動リフレッシュ】**
自動リフレッシュを有効にするためには、"自動リフレッシュを行う"を選択してください。
- **【インターバル】**
リフレッシュを行うインターバルを指定してください。
・設定範囲 : 0～999時間、または0～59940分間
※ 0を指定すると、「OK」ボタンをクリックした直後の1回のみ、リフレッシュを行います。
- **【OK】**
設定を保存してウィンドウを閉じます。
- **【キャンセル】**
ウィンドウを閉じます。
- **【ヘルプ】**
オンラインヘルプを表示します。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.2.6 ヘルプメニュー

ヘルプメニューには、次のものが含まれます。

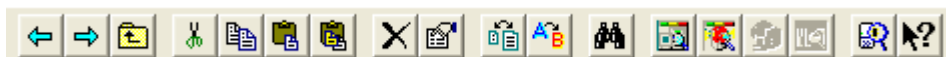
- **「ヘルプ」・「トピックの検索」**
オペレーションウィンドウのヘルプから、キーワードでヘルプトピックを検索します。

- 「ヘルプ」・「オペレーションウィンドウのヘルプ」
オペレーションウィンドウに関するヘルプを開きます。
- 「ヘルプ」・「バージョン情報」
オペレーションウィンドウのバージョンを表示します。

上記以外のメニューについての説明は、ツールバーのヘルプボタンを使って表示させてください。

8.1.3 ツールバー

ツールバーには、オペレーションウィンドウのメニューバーから実行できるコマンドやアイコンのポップアップメニューから実行できるコマンドのいくつかが表示されています。これらのボタンは、マウスでクリックすることによって、実行することができます。



実行できる機能は以下のとおりです。



「ひとつ戻る」

オペレーションウィンドウの移動履歴をひとつ前に戻ります。



「ひとつ進む」

オペレーションウィンドウの移動履歴をひとつ先に戻ります。



「ひとつ上のマップへ」

マップビューに表示中のマップの、1つ上のマップを表示します。インフォメーションビューを表示している場合は、対応する機器を含むマップを表示します。



「切り取り」

現在選択中のアイコンをクリップボードに保存します。

クリップボードに保存した状態では、赤い点線枠で囲まれた状態で、マップビュー上に表示されます。

[貼り付け] 操作を行うと、元のマップビューおよびツリービューからアイコンが消え、現在表示しているマップビュー上にアイコンが表示されます。

注意

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可] にチェックがついているかを確認してください。
- 切り取り前の位置によっては、貼り付けたマップビュー上に表示されない場合があります。この場合、切り取り時の位置までマップビューをスクロールさせて、貼り付けられていることを確認してください。
- 切り取り操作の後で以下の操作を行うと、切り取り操作は取り消されます。
 - アイコンの選択状態が変更されたとき

■新たにコピーを行ったとき



「コピー」

現在選択中のアイコンを、クリップボード上に保存します。

貼り付けたいマップビュー上で[貼り付け]操作を行うと、コピーしたアイコンがあった場所相当の位置に表示されます(ただし、同じマップビュー上で[コピー]と[貼り付け]を連続して行うと、少しずつ表示します)。

[切り取り]との違いは元のアイコンが削除されない点です。

注意

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。



「張り付け」

クリップボードに保存されたアイコンをマップビューに貼り付けます。

注意

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

また、あらかじめ[切り取り]や[コピー]を選択していない場合も選択できません。



「別の名前で張り付け」

クリップボードに保存されたアイコンを別の名前で複製、登録します。

マップ型のアイコンを別名で貼り付けた場合、マップ型アイコンの配下に登録されていた各種アイコンは、コピーされません。

注意

- メニューを選択できない場合は、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。

また、あらかじめ[切り取り]や[コピー]を選択していない場合も選択できません。



「削除」

選択中のアイコンを削除します。

注意

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか、オプションメニュー [編集許可]にチェックがついているかを確認してください。



「プロパティ」

指定したコンポーネントのプロパティ(属性)をプロパティダイアログに表示します。表示する内容は、アイコンの種類によって異なります。

注意

- メニューを選択できない場合は、アイコンを選択しているか確認してください。



「全景」

メニューを選択してチェックマークを付けると、マップビューにマップ全体が表示されるように、マップビューのサイズにあわせて、画面が自動的に拡大／縮小します。



「別名表示」

メニューを選択してチェックマークを付けると、各コンポーネントの別名を表示します。プロパティダイアログで別名を設定していない場合は、コンポーネント名を表示します。



「検索」

指定した名前やIPアドレスを持つコンポーネントのアイコンを検索し、そのリストを表示します。名前の指定には、標準コンポーネント名指定形式が使用できます。リスト部分をダブルクリックすると、オペレーションウィンドウ上で該当アイコンを表示します。



「アラートビューアの起動」

アラートビューアを起動します。



「SMSの起動」

Microsoft Systems Management Server (SMS)を起動します。

注意

- メニューを選択できない場合は、SMSがインストールされているかどうかを確認してください。



「MIFブラウザの起動」

MIFブラウザを起動します。MIFブラウザは、指定されたデバイスのMIFオブジェクトを収集します。



「CMデータビューア」

CMデータビューアを起動します。



「ヘルプ」

このボタンを押した後で、メニューやアイコンパレットの上でクリックを行うと、クリックした場所に関するヘルプを表示します。

注意：

同時にインストールされるESMPRO関連のアプリケーションによって、ツールバーの内容が追加される場合があります。

8.1.4 オペレーションウィンドウの基本操作

8.1.4.1 マップの操作

1) オペレーションウィンドウを編集可能にするには

オプションメニュー [編集許可]にチェックマークがついていれば、現在編集可能です。
チェックマークがついていなければ、同メニューを選択して、チェックマークを付けてください。

注意

- ▶ マネージャ間通信を使ってリモートのマップを表示している場合、相手マネージャへの書き込み権がなければ、書き込みを行うことはできません。

2) マップを作成・登録するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。
- ・ アイコンパレットが表示されていること。

手順

- (1) オペレーションウィンドウ上でマップを作成・登録したいマップ(上位にあたるマップ)をクリックして、マップビューを表示させてください。
- (2) アイコンパレット上で、作成・登録したい適切なマップ系のアイコンをクリックし、マップビューの適切な位置でクリックします。プロパティダイアログが表示されます。
登録可能な場合は、マップビュー上でマウスカーソルが変化します。
ツリービューへの直接の登録はできませんので、マウスカーソルも変化しません。
マップビューに登録すると、自動的にツリービューに登録されます。
- (3) 「マップ名」に63文字以内の半角英数文字列を入力してください。ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)も使用することができます。(例えば、「honsha-8F」など)。
- (4) 「タイトル」に「本社ビル8階」などと設定したい場合は、その他のプロパティに必要な設定を行ってください。
- (5) 「OK」ボタンを押してください。

3) マップを削除するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。

- (1) 削除したいアイコンをマウスでクリックしてください。
CTRLキーを押しながらクリックすると複数のアイコンを選択できます。
- (2) 編集メニュー [削除]を選択してください。

4) 見たいマップを表示するには

ツリービューやマップビュー上の表示したいマップアイコンをダブルクリックしてください。

5) マップを印刷するには

オペレーションウィンドウのマップを印刷するには以下の手順にしたがってください。

- (1) 印刷を行いたいマップの内容を、マップビューに表示してください。
- (2) ファイルメニュー [印刷]を実行してください。

注意事項

➤ ツリービューの内容を印刷することはできません

6) 背景を編集するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。

背景の読み込み

- (1) BMP形式の背景イメージをイメージ編集ツール(ペイントブラシなど)を使って作成します。
- (2) 背景を登録したいアイコンを選択して、ファイルメニュー [プロパティ]を選択してください。
- (3) 背景欄にあらかじめ準備していた背景イメージファイルを設定してください。

この背景イメージファイルは、ワークディレクトリの下の¥data¥bakbmpディレクトリに存在するファイルでなければなりません。

直接、背景欄に背景イメージファイルを設定する場合は、別途、このディレクトリに目的のファイルをコピーしてください。

背景欄横の補助ボタンを使って背景イメージファイルを指定する場合は、自動的に上記のディレクトリに背景イメージファイルがコピーされます。

背景の削除

- (1) 背景を削除したいアイコンを選択後、ファイルメニュー [プロパティ]を選択してください。
- (2) 背景欄に記述している背景イメージファイル名を削除してください。

注意:

➤ 背景データは、ディスクに残ったままなので、背景データ自身を削除する場合は、ワークディレクトリの下¥data¥bakbmpディレクトリにあるファイルを削除してください。

8.1.4.2 コンポーネント/アイコンの登録・編集

1) コンポーネント/アイコンを登録するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。

手順

- (1) 表示メニュー [アイコンパレット] をチェックしてアイコンパレットを表示してください。
- (2) アイコンパレットから登録したいアイコンをクリックしてください。

アイコンパレット上部の矢印の左に現在選択中のアイコンが表示されます。



同じ種類のアイコンを連続して登録したい場合は、「連続登録」モードを選択してください。「一回登録」モードの場合は、アイコンを登録するたびに、登録するアイコンの種類を選択してください。

- (3) マウスカursorをオペレーションウィンドウのマップビューの上に移動し、再度クリックしてください。プロパティダイアログが表示されます。

登録可能な場合は、マップビュー上でマウスカursorが変化します。



登録可能な場合のマウスカursor

ツリービューへの直接の登録はできませんので、マウスカursorも変化しません。

マップビューに登録すると、自動的にツリービューに登録されます。

- (4) プロパティダイアログにプロパティ情報を入力してください。
登録するプロパティ(属性)は、アイコンタイプによって異なります。
どのようなプロパティを入力するかは、そのアイコンを登録したアプリケーションのヘルプファイルなどを参照してください。
また、ツールバーのヘルプボタンをクリックし、アイコンパレット上のアイコンをクリックすると、そのアイコンに関するヘルプを表示します。
- (5) プロパティダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

(6) 「連続登録」モードの場合、もう一度マップ上でクリックを行うと次のアイコンを登録することができます。

アイコンの選択を解除したい場合は、アイコンパレットの上部の矢印をクリックしてください

登録した内容は、プロパティダイアログを使って後で変更することができます。

2) アイコンを移動するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。

ドラッグ&ドロップでマップビューの位置やマップ間を移動できます。

3) アイコンを削除するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。

(1) 削除したいアイコンをマウスでクリックしてください。

CTRLキーを押しながらクリックすると複数のアイコンを選択できます。

(2) 編集メニュー [削除]を選択してください。

4) コンポーネントを定常的に自動発見するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。
- ・ 自動発見を行いたいマップアイコンにネットワークアドレス、ネットワークマスクが設定されていること。

手順

(1) 定常的に自動発見を行いたいマップをツリービューで選択してください。

(2) ツールメニュー [自動発見]-[自動起動]を選択してください。

(3) [定常的に自動発見を行う] にチェックを付けてください。

(4) 対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。

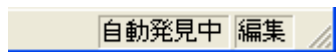
複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpro”のようにカンマ(,)で区切って設定してください。

(5) 自動発見を行う間隔を設定してください。

インターバルに0を指定すると、「OK」ボタンをクリックした直後に1回だけ自動発見を行います(定常的な自動発見を行いません)。

- (6) もし、再送回数や開始時刻などを変更したい場合は、[詳細]ボタンをクリックして、[自動発見の詳細設定]ダイアログで行ってください。
- (7) 設定内容に問題がなければ、「OK」をクリックしてください。

自動発見実行中は、ステータスバーに「自動発見中」を表示します。



ステータスバー（右側の欄）

5) TCP/IPホストを自動発見するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウが編集可能であること。
- (1) TCP/IPホストを登録したいマップをツリービューで選択してください。
 - (2) ツールメニュー [自動発見]-[手動起動]-[TCP/IPホストの発見]を選択してください。
 - (3) [発見対象マップ]でネットワークアドレス、ネットワークマスクを確認してください。
特定のネットワークアドレス単位で自動発見を行う場合やアドレスの範囲を指定したい場合は、[アドレス指定]ボタンをクリックして、「アドレス指定」ダイアログで行ってください。
 - (4) 対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。
複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpro”のようにカンマ(,)で区切って設定してください。
 - (5) 詳細な設定については、[詳細]ボタンをクリックして、「自動発見の詳細設定」ダイアログで行ってください。
 - (6) 「開始」ボタンをクリックしてください。
自動発見を開始し、ダイアログ下のインジケータに、どの程度自動発見が進んでいるかを表示します。
 - (7) 自動発見が終了したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。
また、途中で自動発見を中止したい場合は、「中止」ボタンをクリックしてください。

ヒント

- ✓ 自マネージャダイアログで、「UNIXマネージャと連携する」にチェックマークをつけると、[発見対象マップ]欄の上に、マネージャ名欄が表示されます。
- ✓ マネージャ名欄で登録済みのUNIXマネージャを選択すると、選択しているUNIXマネージャに登録されているマップに対して、自動発見・自動登録を行うことができます。

6) NetWareサーバを自動発見するには

前提

- オペレーションウィンドウが編集可能であること。
- IPX/SPXプロトコルがインストールされていること。

- (1) NetWareサーバを登録したいマップをツリービューで選択してください。
- (2) ツールメニュー [自動発見]-[手動起動]-[NetWareサーバの発見]を選択してください。
- (3) 対象となっているネットワーク上の機器に設定されているSNMPコミュニティ名を設定してください。
複数のSNMPコミュニティ名を設定する場合は、“public,esmpro”のようにカンマ(,)で区切って設定してください。
- (4) 詳細な設定については、[詳細]ボタンをクリックして、「自動発見の詳細設定」ダイアログで行ってください。
- (5) 「開始」ボタンをクリックしてください。
自動発見を開始し、ダイアログ下のインジケータに、どの程度自動発見が進んでいるかを表示します。
- (6) 自動発見が終了したら、「閉じる」ボタンをクリックしてください。
また、途中で自動発見を中止したい場合は、「中止」ボタンをクリックしてください。

7) DHCPクライアントを登録するには

オペレーションウィンドウでは、IPアドレスを静的に管理しますので、DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol)などによりホスト(DHCPクライアント)のIPアドレスが動的に変わる場合に注意が必要です。DHCPを使用しないか、次のような運用をお勧めします。

- a) DHCPクライアントに対してはオペレーションウィンドウ上でIPアドレスを設定しない。
- b) DHCPクライアントに対しては「DhcpClientXXX」(XXXはIPアドレスのホスト部)などのようなホスト名をつける。

8.1.4.3 コンポーネント/アイコンの登録・編集

1) プロパティを表示するには

プロパティを表示させたいコンポーネントのアイコンを選択して、ファイルメニュー [プロパティ]を選択してください。

あるいは、アイコンを選択して、右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]を選択してください。

2) プロパティを変更するには

前提

- オペレーションウィンドウが編集可能であること。

- (1) プロパティを表示させたいコンポーネントのアイコンを選択して、ファイルメニュー [プロパティ]を選択してください。
- (2) 変更したい項目の内容を修正して「OK」ボタンを押してください。

8.1.4.4 アイコンタイプの登録・編集

1) アイコンタイプを新規登録するには

手順

- (1) オプションメニュー [カスタマイズ] - [アイコンタイプ] を選択してください。 アイコンタイプ設定ダイアログが表示されます。
- (2) 登録したいアイコンタイプの上位のアイコンタイプを「アイコンタイプ」欄でクリックして選択して、「追加」ボタンをクリックしてください。「NewIconType」というラベルのアイコンタイプが登録されます。

注意：

- これから登録しようとするアイコンは、ここで指定した上位のアイコンタイプのプロパティやメニューなどを継承します。
- (3) 「NewIconType」というラベルを適切な名称に変更してください。 名前には、63文字以内の半角英数文字列を使用することができます。(アンダーバー(_)、ハイフン(-)も使用できます。)
 - (4) 追加したアイコンタイプが選択されている状態で「編集」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログが表示されます。
 - (5) ポップアップメニューを編集してください。
上位のアイコンタイプのポップアップメニューと同じメニューでよければ、編集する必要はありません。
 - (6) アイコンタイプで使用するビットマップを選択してください。
 - (7) プロパティを編集してください。
上位のアイコンタイプと同じでよければ、設定する必要はありません。
 - (8) 設定が終わったら、アイコンタイプ詳細設定ダイアログ、アイコンタイプ編集ダイアログを「OK」ボタンで終了してください。
 - (9) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。

2) アイコンタイプを編集するには

手順

- (1) オプションメニュー [カスタマイズ] - [アイコンタイプ] を選択して、アイコンタイプ編集ダイアログを表示する。
- (2) 編集したいアイコンタイプを、アイコンタイプ設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄上でクリックし、「編集」ボタンをクリックしてください。
- (3) 下記を参照し編集を行ってください。

- 2)-1 ポップアップメニューを登録するには
- 2)-2 ポップアップメニューを編集するには
- 2)-3 ポップアップメニューを削除するには
- 2)-4 ビットマップイメージを選択するには
- 2)-5 新しいプロパティを定義するには
- 2)-6 プロパティを編集するには
- 2)-7 プロパティを削除するには

- (4) 設定が終わったら、アイコンタイプ詳細設定ダイアログ、アイコンタイプ編集ダイアログを「OK」ボタンで終了してください。
- (5) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。

4)-1 ポップアップメニューを登録するには

手順

- (1) 「追加」ボタンをクリックしてください。「NewItem」という新しいメニューが「メニュー項目」欄に表示されるとともに、テキスト、コマンド欄などが編集可能になります。
- (2) 追加したいメニューのラベルを「テキスト」欄に設定してください。もし、セパレータを登録したい場合は、ハイフンを二つ続けて設定してください。
- (3) メニューに対応したコマンドを「コマンド」欄に設定してください。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして、希望するコマンドを選択してください。
- (4) コマンドに渡す引数があれば、「引数」欄に設定してください。なお、引数にマップ名やコンポーネント名を渡すために、置換文字列を使うことができます。直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして表示されるメニューから選択してください。
- (5) メニュー上にカーソルを置いた際に、ステータスバーに表示する文字列を、「説明文」欄に設定してください。
- (6) このメニューをアクティブにする条件を設定してください。条件が設定されていない場合は、常時アクティブになります。(→ 条件の詳細を参照してください。)
- (7) このメニューを、ポップアップメニューに表示しない場合は、「表示しない」にチェックマークをつけてください。
- (8) アイコンをダブルクリックしたときに、現在登録中のメニュー(コマンド)を実行したければ、「ダブルクリック時の動作とする」にチェックマークをつけてください。
- (9) メニューの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。
- (10) プロパティの設定など、他の設定事項があれば、続けて設定してください。もし、他に設定事項がなければ、「OK」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログを閉じます。

注意事項

- ▶ システムが用意しているメニューや、上位アイコンタイプのメニューの上に、ユーザ定義のメニューを移動することはできません。

4)-2 ポップアップメニューを編集するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「コマンド」タブを表示していること。

手順

- (1) 編集したいメニューをクリックしてください。
- (2) 編集したい項目(テキスト、コマンドなど)を変更してください。

注意事項

- ▶ 上位のアイコンタイプから継承しているメニューは、コマンド、引数、説明文、条件が変更できません。

4)-3 ポップアップメニューを削除するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「コマンド」タブを表示していること。

手順

- (1) 削除したいメニューを「メニュー項目」からクリックして選択してください。
- (2) 「削除」ボタンをクリックしてください。

注意事項

- ▶ システムが提供しているアイコンタイプのポップアップメニューは削除できません。ユーザが別途追加したポップアップメニューは削除可能です。
- ▶ 下位にアイコンタイプを持つアイコンタイプのポップアップメニューを削除する場合、下位のアイコンタイプのポップアップメニューも削除されますので注意してください。

4)-4 ビットマップイメージを選択するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「ビットマップ」タブを選択していること。必要であれば、ビットマップイメージ(BMPファイル)を準備しておく。

手順

- (1) 「ビットマップファイル」欄に、アイコンタイプを表現するのに適切なビットマップイメージがあるかどうかを確認してください。もし、なければ、「追加」ボタンをクリックして、あらかじめ準備しておいたビットマップイメージを選択して、「ビットマップファイル」内に登録してください。
- (2) 適切なビットマップイメージをクリックして選択してください。「プレビュー」欄にイメージが表示されます。このイメージをアイコンタイプのビットマップとして使用します。
- (3) プロパティの設定など、他の設定事項があれば、続けて設定してください。もし、他に設定事項がなければ、「OK」ボタンをクリックしてください。アイコンタイプ詳細設定ダイアログを閉じます。

4)-5 新しいプロパティを定義するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「プロパティ」タブを表示している。

手順

- (1) 「追加」ボタンをクリックしてください。プロパティ項目の一番下に「NewProperty」というラベルのプロパティが登録されます。
- (2) 「テキスト」欄に、適切なプロパティ名(プロパティダイアログに表示されるラベル)を設定してください。
- (3) 「保管場所」欄に、この情報を保管する任意の変数名(63文字以内の英数文字列)を設定してください。ハイフン(-), アンダーバー(_)も使用することができます。
- (4) 「初期値」欄に、アイコン登録時に自動的に設定される値を設定してください。設定がない場合は、アイコン登録時のこの項目は空欄になります。
- (5) もし、このプロパティをプロパティダイアログに表示させない場合は、「表示しない」にチェックマークをつけてください。
- (6) プロパティの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。

注意事項

- システムが提供しているプロパティの上に、ユーザ定義のプロパティを移動させることはできません。
- 登録したプロパティは、オペレーションウィンドウの再起動後有効になります。

4)-6 プロパティを編集するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「プロパティ」タブを表示している。

手順

- (1) 変更したいプロパティを選択してください。
- (2) 「テキスト」、「初期値」欄などに、適切なプロパティ名を設定してください。

注意事項

- システムが提供しているアイコンタイプの場合は、保管場所を変更できません。

4)-7 プロパティを削除するには

前提

- ・ アイコンタイプ詳細設定ダイアログの「プロパティ」タブを表示している。

手順

- (1) 削除したいプロパティを選択して、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意事項

- システムが提供しているプロパティは、削除できません。

3) アイコンタイプを削除するには

前提

- ・ オペレーションウィンドウのメニュー [オプション] - [カスタマイズ] - [アイコンタイプ] を選択して、アイコンタイプ編集ダイアログを表示させている。

手順

- (1) 削除したいアイコンタイプを、アイコンタイプ設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄上でクリックし、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (2) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。
- (3) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。


注意事項

- システムが提供しているアイコンタイプは削除できません。
- アイコン設定ダイアログの「アイコンタイプ」の欄で下位のアイコンタイプを持つアイコンタイプを削除する場合、下位のアイコンタイプも削除されるので注意が必要です。

8.1.4.5 ツールメニューの登録・編集

1) ツールメニューにメニューを追加するには

手順

- (1) オプションメニュー [カスタマイズ] - [ツール] を選択してください。
ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 「追加」ボタンをクリックしてください。「メニュー項目」欄の一番下に、「NewItem」のラベルのメニューが登録されます。
- (3) 「テキスト」欄で、メニューの適切なラベルを設定してください。
セパレータを設定したい場合は、ハイフンを二つ設定してください。
- (4) メニューに対応したコマンドを「コマンド」欄に設定してください。
直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして、希望するコマンドを選択してください。
- (5) コマンドに渡す引数があれば、「引数」欄に設定してください。
なお、引数にマップ名やコンポーネント名を渡すために、置換文字列を使うことができます。
直接設定したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして表示されるメニューから選択してください。
- (6) メニューを探索中に、ステータスバーに表示する文字列を、「説明文」欄に設定してください。
- (7) このメニューに対応したボタンをツールバーに表示させたい場合は、「ツールバーに表示する」にチェックマークをつけてください。
 のようなビットマップイメージでツールバーに表示します。
- (8) メニューの位置を上下に移動したければ、「上へ」ボタン、「下へ」ボタンを使って移動させてください。
- (9) すべての設定がよければ、「OK」ボタンをクリックしてください。

注意事項

- プロパティの内容によって、メニューを選択可能・不可にするには、「条件」欄に可能となる
ときの条件を設定してください。

2) ツールメニューにメニューを変更するには

手順

- (1) オプションメニュー [カスタマイズ] - [ツール] を選択してください。
ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 変更したいメニューを選択してください。
- (3) メニューの適切なラベル、コマンド、引数、説明文などを設定してください。
- (4) 設定が終わったら、「OK」ボタンで終了してください。
- (5) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。

注意事項

- システムが提供しているメニューは、変更できません。

3) ツールメニューにメニューを削除するには

手順

- (1) オプションメニュー [カスタマイズ]-[ツール] を選択してください。
ツール設定ダイアログが表示されます。
- (2) 削除したいメニューをクリックして、「削除」ボタンをクリックしてください。
- (3) 確認ダイアログが表示されますので、削除してよければ、「OK」をクリックしてください。

注意事項

- システムが提供しているメニューは、削除できません。

8.1.4.6 マネージャ間通信

1) 他のマネージャと接続するには

マネージャ間通信機能 において「隣接マネージャ」と接続するには双方のマネージャでの設定が必要になります。以下の手順にしたがってください。

手順

- (1) 相手マネージャで下記を確認してください。

「マネージャ名」

「ポート番号」

「IPアドレス」

「マネージャ名」、「ポート番号」は、オペレーションウィンドウのオプションメニュー [カスタマイズ]-[自マネージャ]で確認できます。

- (2) オプションメニュー [カスタマイズ]-[マネージャ間通信]を選択してください。
「マネージャ間通信ダイアログ」を表示します。
- (3) 「隣接マネージャ」タブで、「追加」ボタンをクリックして「隣接マネージャ設定ダイアログ」を表示してください。
- (4) 「マネージャ名」には相手側のマネージャ名を指定してください。
- (5) 「IPアドレス」には相手側のマシンのIPアドレスを指定してください。
- (6) 「パスワード」には相手側の「隣接マネージャ設定ダイアログ」で設定した(両者であらかじめ決めていた)パスワードを入力してください。
パスワードの誤入力を防ぐため「パスワード再入力」にもう一度同じパスワードを入力してください。

注意：

- パスワードにはスペース、タブ文字、ダブルクォーテーション(")、シングルクォーテーション(')、バックslash(＼)、円記号(¥)の文字は使用しないでください。

- (7) 「ポート番号」には相手側のマシンのポート番号を指定してください。
- (8) 入力が完了したら「OK」ボタンを押してください。
- (9) 「隣接マネージャ」タブの表示欄に、今追加した隣接マネージャのエントリが「未接続」状態で表示されます。
登録内容に問題なければ、「OK」をクリックしてください。
- (10) オペレーションウィンドウを終了、再起動してください。
- (11) 相手マネージャにおいてすでに設定が完了していれば、自動的に両者の接続が行われます。
設定が完了していない場合は、相手マネージャにおいて同じ手順を行ってください。
接続状態については、「マネージャ間通信ダイアログ」の「隣接マネージャ」タブで確認できます。

以下に「Kansaiマネージャ」と「Kantoマネージャ」が接続する際の両者の設定の例を示します。



2) 漢字コード変換機能について

統合ビューアでは、SJIS(デフォルト)とEUCの2種類の漢字コードを選択することができます。

- SJIS を選択する場合は、2文字以上の半角カタカナで始まる文字列を表示できますが、EUC を正しく表示できません。
- EUC を選択する場合は、EUCを表示できますが、2文字以上の半角カタカナで始まる文字列を正しく表示できません。

漢字コードをEUCに変更する手順は下記となります。

- (1) レジストリエディタを起動し、下記レジストリ値を追加します。

キー： HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE

種類： REG_SZ

値名： KanjiConvert

値： EUC

(2) 統合ビューアを再起動します。

漢字コードをSJISに戻す場合は、KanjiConvertレジストリ値を削除してください。

3) リモートのマップの背景を表示するには

アイコンの背景プロパティとして追加したビットマップファイル設定をすると、マネージャ間通信の相手マネージャ上で背景を表示することができません。追加したビットマップファイルを相手マネージャ上のワークディレクトリ¥DATA¥BAKBMP ディレクトリにコピーしてください。

8.1.4.7 その他

1) ワークディレクトリの場所を変更するには

ディスクに空き容量が足りなくなったなど、ワークディレクトリ の場所を移動したい場合は以下の手順でワークディレクトリを移動することができます。

- (1) Administrators の権限をもつユーザでログオンしてください。
- (2) オペレーションウィンドウ,アラートビューアなど、すべてのESMPRO関連GUIを終了してください。
- (3) ESMPRO関連サービスを停止してください。ESM Base Serviceを停止させると自動的に他の関連サービスも停止します。これらのサービスは、サービスを再起動させる際にすべて起動してください。
- (4) 「エクスプローラ」で、ワークディレクトリ(たとえば C:¥Program Files¥ESMPRO¥NVWORK)を他のドライブなどに移動してください。
- (5) レジストリエディタ(REGEDT32かREGEDIT)を起動し、以下の項目を編集して下さい
 - ① ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥WorkDir
移動先のパスへ変更して下さい。
 - ② ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥GeneralFilter
移動先のパス¥Alert¥filter¥genericsg へ変更して下さい。
 - ③ ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥DiosaFilter
移動先のパス¥Alert¥filter¥odisoasg へ変更して下さい。
 - ④ ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥AlertViewer¥AlertPath
移動先のパス¥alert へ変更して下さい。
 - ⑤ ¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥AlertViewer¥AlertType¥*¥AniCurrent

削除して下さい。このレジストリは設定されていない場合もあります。

⑥ `¥HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥AlertViewer¥AlertType¥*¥WavCurrent`

アラートビューアの[ツール]-[オプション]のアラートタイプタブにてサウンドの変更を行っていない場合は削除して下さい。

変更を行っている場合は、移動先のパス`¥Alert¥Sound¥**.wav`へ変更して下さい。**は元々設定されているwavファイル名です。

このレジストリは設定されていない場合もあります。

*はAlertType配下に存在する全てのレジストリキーを意味しています。

ここにはCPUやFan等の各種アラートタイプが設定されています。

また、ESMPRO/ServerManagerを使用されている場合は、「ローカルマシン上のHKEY_LOCAL_MACHINE」の中の、「HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥ESMSM¥CurrentVersion¥ODBC」を選択し、右側の値一覧の中から「LocalFileDirectory」の1行をダブルクリックしてください。

統計情報を格納するディレクトリの場所が表示されますので、新しい場所に変更して「OK」としてください。

ワークディレクトリを`D:¥esmpro¥nwork`に変更したとすると、「LocalFileDirectory」には、`D:¥esmpro¥nwork¥esmpro`と設定することになります。

ワークディレクトリに`¥esmpro`を付加しなければならないことに注意してください。

(6) OSの再起動を実施してください。

以上でワークディレクトリの移動は終了です。「エクスプローラ」、「レジストリエディタ」の使用方法はそれぞれのヘルプを参照してください。

2) システムファイルをバックアップ/リストアするには

不慮のトラブルによるデータの紛失に備えるために、定期的にシステム情報ファイルのバックアップを行うことをお勧めします。

以下の方法によりバックアップ/リストアを行ってください。

バックアップ

(1) Administrators の権限をもつユーザーでログオンしてください。

(2) ワークディレクトリを他のドライブなどにバックアップ(コピー)してください。

(3) バックアップ先のワークディレクトリから"`¥Data¥alert`"を削除してください。

このディレクトリは、マネージャ間通信イベント通知でアラート再送機能を有効と設定している場合に再送用のアラートが一時的に保持されるディレクトリです。このディレクトリをバックアップ・リストアするとアラート再送機能が正常動作できなくなる場合があります。

注意

- ▶ バックアップを行う際は、ESMPRO 関連のサービスを停止することを推奨します。
- ▶ バックアップ中に自動発見機能が動作すると、バックアップに失敗することがあります。その場合、一度バックアップを中止し、再度バックアップを行ってください。

ワークディレクトリのリストア

- (1) Administrators の権限をもつユーザーでログオンしてください。
- (2) オペレーションウィンドウなど、すべてのESMPRO関連コマンドを終了してください。
- (3) ESM Base Service とそれに関連するサービスを停止してください。
- (4) 他のドライブなどにバックアップしていたワークディレクトリをリストア(置換)してください。
- (5) オペレーティングシステムを再起動してください。

注意

- ▶ システムを再インストールする場合は、バックアップを行った環境と同じドライブ、ディレクトリパス、ESMPROユーザーグループでインストールを行ってください。

3) アラートビューアにSNMPトラップを表示させないようにするには

アラートビューア上に、ServerAgentがインストールされていない機器からのSNMPトラップの内容も表示されることがあります。この場合、アラートビューアでのタイプ欄には、SNMP Trap と表示されます。

これらの情報をアラートビューアに表示させたくない場合は、以下の設定を行ってください。

- 以下の記述を\$WORKDIR¥public¥trap¥user.defに追加してください。左記のファイルがない場合は、新規に作成してください。
- マシンの再起動、又はESM Alert Serviceの再起動後有効となります。
ESM Alert Serviceの再起動を行う場合は、事前にアラートビューアを終了して下さい。

SNMPトラップを受信しない。

Enterprise: *

GenericCode: 0

SpecificCode: *

Logging: 0

Enterprise: *
GenericCode: 1
SpecificCode: *
Logging: 0

Enterprise: *
GenericCode: 2
SpecificCode: *
Logging: 0

Enterprise: *
GenericCode: 3
SpecificCode: *
Logging: 0

Enterprise: *
GenericCode: 4
SpecificCode: *
Logging: 0

Enterprise: *
GenericCode: 5
SpecificCode: *

4) アラートビューアにSNMPトラップを表示させる方法

アラートビューアにSNMPトラップを表示させるためには以下の作業を行います。

- 4)-1 アラート定義ファイルを作成する(ベンダ定義トラップ)
- 4)-2 アラート定義ファイルを作成する(一般トラップ)
- 4)-3 アイコンを登録する

アラート定義ファイル作成には、アラート定義ファイル作成支援ツール(MIB2DEF.exe)を利用ください。

支援ツールでは下記機能を提供しています。

- MIBファイルを読み込み、アラート定義ファイルの雛形を生成
- アラート定義ファイルをGUIで編集

なお、作成支援ツールでは AlertType、Source、および EventID の3項目については対象外となります。

これら3項目につきましては、定義ファイルを直接編集ください。

支援ツールの起動は、ファイル名を指定して実行より MIB2DEF.exe を起動となります。

4)-1 アラート定義ファイルを作成する(ベンダ定義トラップ)

[準備]

ベンダより提供されているMIBファイル中のSNMPトラップ定義を確認します。

MIBファイルの形式はRFC1215に準拠している SMIv1 と RFC2578に準拠している SMIv2 の種類があります。

【 SMI v1 】

SNMPトラップの情報は、TRAP-TYPE マクロの形で提供されます。

以下の定義を確認してください。

- enterprise
- specific-trap
- varBindList

【 SMI v2 】

SNMPトラップの情報は、NOTIFICATION-TYPEマクロの形式で提供されます。

以下の定義を確認してください。

- OID
- varBindList

[作成]

以下の内容を %NWORK%\public\trap\user.def ファイルに記述します。

%NWORK% : ESMPRO/BASEインストールフォルダです。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\NVBASE\WorkDir を確認ください。

※ESMPRO/BASEで扱うことのできる文字コードは "SHIFT-JIS" です。

アラート定義ファイルを作成するときの文字コードに注意してください。

: #で始まる行はコメント行になります。

Enterprise(必須):

【 SMI v1 】

enterpriseの値を設定してください。

【 SMI v2 】

OIDより末尾の値を除いた値を設定してください。

例) OIDが "1.3.6.1.4.1.119.2.2.4.4.18.3.1" の場合
".1"を除いた"1.3.6.1.4.1.119.2.2.4.4.18.3"をEnterpriseとして設定してください。

1.3.6.1.4.1.までをチルダ(~)を使って省略することができます。(~119.2.2.4.4.18.3)
任意の値が対象となる場合は、アスタリクス(*)を設定してください。

GenericCode(必須):

"6" (固定値) を設定してください。

SpecificCode(必須):

【 SMI v1 】

specific-trapの値を設定してください。

【 SMI v2 】

OIDの末尾の値を設定してください。

例) OIDが "1.3.6.1.4.1.119.2.2.4.4.18.3.1" の場合
末尾の"1"をSpecificCodeとして設定してください。

任意の値が対象となる場合は、アスタリクス(*)を設定してください。

以降は、必須項目(Enterprise/GenericCode/SpecificCode) 3つの値を持つSNMPトラップを受け取ったときにアラートビューアの各項目で表示したい値を設定します。

■ 重要度

重要度の定義は、下記の2通りの方法があります。
省略した場合は "2"(情報) となります。

- 固定的に定義する。

"Severity:"

"2"(情報) / "3"(警告) / "4"(異常) の何れかを指定します。

- varBindListの値に応じ "重要度" を決定する。

"Severityoid:"

重要度を決定するための情報が、`varBindList`の何番目に通知されるのかを定義する。

"Severitymap:"

`Severityoid` で定義した`varBindList`の値がどの値だった場合にどの重要度とするかのマッピング情報を定義する。

<書式> Severitymap: #2,[情報にマッピングする値],#3,[警告にマッピングする値],#4,[異常にマッピングする値]

<書式> Severitymap: #2,[情報にマッピングする値],[値その2],[値その3],#4,[異常にマッピングする値]

#2: 情報 に紐付ける値

#3: 警告 に紐付ける値

#4: 異常 に紐付ける値

紐付けられていない値は 情報 となります。

※ 定義の優先度は、`Severityoid` > `Severity` となります。

※ `Severityoid` と `Severitymap` は対の定義となります。

■ 概要 "Summary:"

表示したい文字列を設定してください。

`varBindList`に含まれる値を表示したい場合は、%値の順番%で表示させることができます。

※ 値に2バイト文字が含まれる場合は、正しく表示できないことがあります。

■ 詳細 "Detail:"

表示したい文字列を設定してください。

詳細は文中で改行したり、タブを挿入可能です。

文中に改行を入れたい場合は、改行位置に "`¥CARRIAGE¥¥NEWLINE¥`" を追加、タブを入れたい場合は、タブ位置に "`¥HORIZTAB¥`" を追加して下さい。

`varBindList`に含まれる値を表示したい場合は、%値の順番%で表示させることができます。

また、%all と指定すると、

MIB名=値

MIB名=値

：

の形式で受信したvarBindListすべてを表示します。

※ 値に2バイト文字が含まれる場合は、正しく表示できないことがあります。

■ 対処 **"Action:"**

表示したい文字列を設定してください。

対処は文中で改行したり、タブを挿入可能です。

文中に改行を入れたい場合は、改行位置に "¥CARRIAGE¥¥NEWLINE¥" を追加、
タブを入れたい場合は、タブ位置に "¥HORIZTAB¥" を追加して下さい。

■ タイプ **"AlertType:"**

表示したい文字列を設定してください。

省略した場合、"SNMP Trap" と表示されます。

■ 製品名 **"ESMKind:"**

表示したい文字列を設定してください。

省略した場合、"ESMPRO/BASE" と表示されます。

■ ソース **"Source:"**

表示したい文字列を設定してください。

■ イベントID **"EventID:"**

表示したい値を設定してください。

■ **"Logging:"**

” 0” (アラートログに残さない)/” 1” (アラートログに残す)の何れか(省略可)を設定してください。

省略した場合の既定値は、“1” (アラートログに残す)となります。

” 0” (アラートログに残さない)を設定した場合は、受信したSNMPトラップは破棄されます。

■ **"CharCode:"**

重要度、概要、詳細、対処 いづれかで varBindList の値を参照/表示する定義を行い、
かつ

varBindListに含まれる文字列の文字コードが Shift-JIS 以外の場合は、文字コード
を設定してください。

文字コードを設定した場合、SNMPトラップを受け取ったときにvarBindListに含まれる文字列は、アラートビューアで表示可能な文字コード Shift-JIS に変換されます。省略した場合、文字列は Shift-JIS と認識されます。

指定可能な文字コードは下記となります。

- SJIS
- EUC
- UTF-8
- UTF-16
- UTF-16BE (ビッグエンディアン)
- UTF-16LE (リトルエンディアン)

※ UTF-16指定時は、BOMの有無で下記のように識別されます。

BOMなし ビッグエンディアン

BOMあり (0xfeff) ビッグエンディアン

BOMあり (0xfffe) リトルエンディアン

ファイルの変更は、マシンの再起動、又は、"ESM Alert Service"の再起動後に有効となります。

[補足]

- 各節の設定できる文字列の長さは、節名:を含めて1,021文字(バイト)までです。改行は含みません。
- 重要度 Severityoid, Severitymap の設定例は下記の通りです。

例)

- varBindListの2番目に重要度の情報が付随されてくる

- 重要度には、下記の値が埋め込まれてくる

1(unknown), 2(emergency), 3(error), 4(warning), 5(info)

- アラートビューアの重要度には下記のように紐付けたい

情報 : 1(unknown), 5(info)

警告 : 4(warning)

異常 : 2(emergency), 3(error)

定義例)

Severityoid: 2

Severitymap: #2,1,5,#3,4,#4,2,3

値に文字列が埋め込まれてくる場合は、

Severityoid: 2

Severitymap: #2,unknown,info,#3,warning,#4,emergency,error

- 詳細 Detail, 対処 Action の改行および、タブの設定例は下記の通りです。
例 : user.def ファイルで以下を定義した場合
Detail: 障害発生¥CARRIAGE¥¥NEWLINE¥CPU¥HORIZTAB¥1番目です。

アラートビューアの詳細欄では以下のように表示します。

障害発生

CPU 1番目です。

- 定義ファイルの読み込み順は、nvbase.def→***.def→user.defです。
Enterprise,GenericCode,SpecificCode定義が複数の定義ファイルで重複している場合は、後から読み込んだ定義ファイルの内容が有効となります。
すでに他の定義ファイルで定義済みの内容を更新したい場合は、user.defで再定義して下さい。

【user.defの記述例】

#enterprise ~119.5.5.6.7、specific-code 6 の SNMP Trap を受信する定義例

Enterprise: ~119.5.6.7

GenericCode: 6

SpecificCode: 15

Severity: 3

Summary: しきい値超過

Detail: しきい値(%1%)を越えました(値=%2%)

Logging: 1

#enterprise ~119.1.2.3 のSNMP Trap を受信しない定義例

Enterprise: ~119.1.2.3

GenericCode: 6

SpecificCode: *

Logging: 0

4)-2 アラート定義ファイルを作成する(一般トラップ)

一般TRAPの場合は、エンタープライズが送信元システムのシステムOID となる場合があります。例のように **GenericCode** のみで定義を作成してください。

[作成]

記述例を `%NVWORK%\¥public¥trap¥user.def` ファイルに記述します。

※Enterprise、GenericCode、SpecificCode 以外については変更可能です。

`%NVWORK%` : ESMPRO/BASEインストールフォルダです。

`HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥NEC¥NVBASE¥WorkDir` を確認ください。

※ESMPRO/BASEで扱うことのできる文字コードは "SHIFT-JIS" です。

アラート定義ファイルを作成するときの文字コードに注意してください。

【user.defの記述例】

```
Enterprise: *
GenericCode: 0
SpecificCode: *
Severity: 2
Summary: coldスタート
Detail: SNMPエージェントがスタートしました
Logging: 1

Enterprise: *
GenericCode: 1
SpecificCode: *
Severity: 2
Summary: warmスタート
Detail: SNMPエージェントが設定変更なしで再初期化されました
Logging: 1

Enterprise: *
GenericCode: 2
SpecificCode: *
Severity: 2
Summary: インタフェースダウン
Detail: インタフェース%1%がダウンしました
Logging: 1
```


Enterprise: *
GenericCode: 3
SpecificCode: *
Severity: 2
Summary: インタフェースアップ
Detail: インタフェース%1%がアップしました
Logging: 1

Enterprise: *
GenericCode: 4
SpecificCode: *
Severity: 3
Summary: 認証エラー
Detail: SNMPコミュニティ名が不正です
Logging: 1

Enterprise: *
GenericCode: 5
SpecificCode: *
Severity: 3
Summary: EGP隣接ダウン
Detail: ノード%1%でEGP Neighborが停止しました
Logging: 1

4)-3 アイコンを登録する

アラートビューアのコンポーネント名は、受信したSNMPトラップの送信元アドレスをオペレーションウィンドウ上に登録されているアイコンより検索して決定します。オペレーションウィンドウ上にアイコンが登録されていないと、アラートビューアのコンポーネント名が” {不明なサーバ}” となります。 ” {不明なサーバ}” と表示される場合は、オペレーションウィンドウにアイコンを登録してください。

オペレーションウィンドウ [ツール]- [自動発見] -[手動起動]-[TCP/IPホストの発見]メニューより自動発見を実行しアイコンを登録します。

製品により、自動発見でSNMPエージェントを発見しない場合があります。自動発見によりSNMPエージェントを発見できない場合は手動でアイコンを登録してください。

アイコンの手動登録手順

- (1) オペレーションウィンドウの [表示] - [アイコンパレット] よりアイコンパレットを起動してください。
メニューを選択できない場合は、[オプション] - [編集許可]にチェックが付いているかを確認してください。
- (2) アイコンパレットで "host" をクリックしてください。
ネットワークに接続される管理対象機器を表す汎用的なアイコンです
- (3) オペレーションウィンドウで登録したいマップを開き、マップビュー(右ペイン)のアイコンを登録したい位置でクリックしてください。
hostアイコンのプロパティが表示されます。
- (4) hostアイコンのプロパティで” ホスト名” , ” IPアドレス” を入力し、[OK]ボタンを押してください。hostアイコンが登録されます。

8.2 アラートビューア

8.2.1 画面説明

アラートビューアはサーバ・クライアント・ネットワーク機器などから送られてくるSNMPトラップやDMIイベントを受信し表示します。

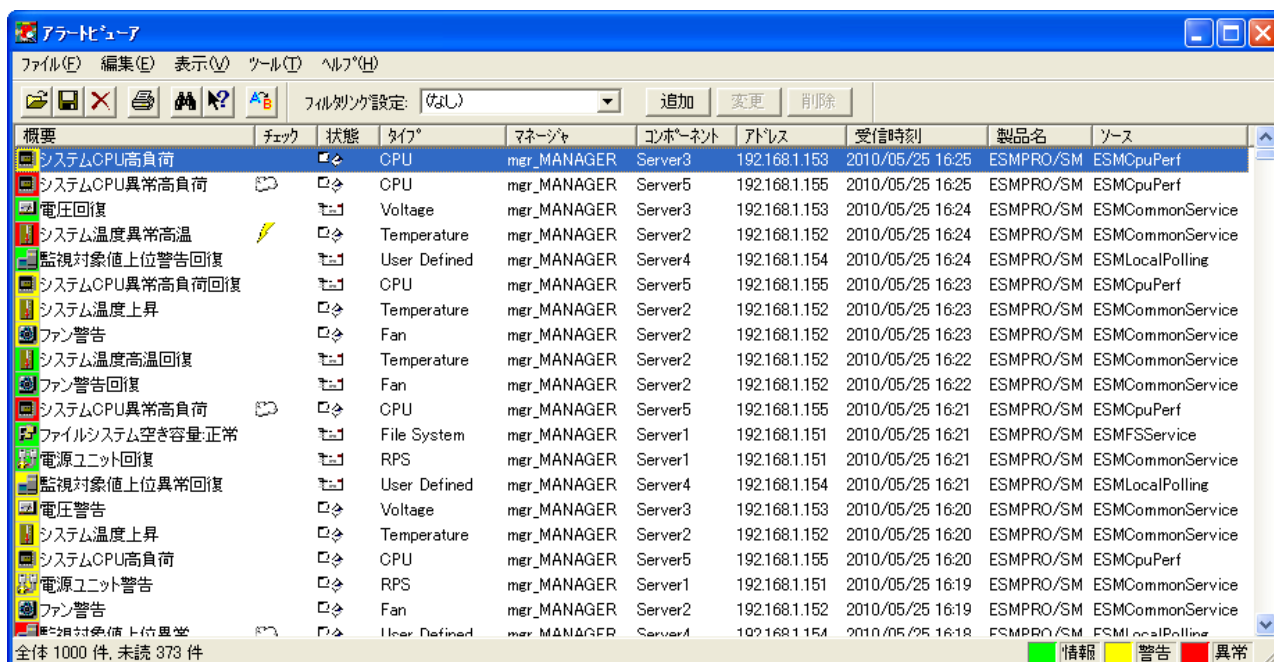
新しく受信されたアラートは自動的にアラート一覧に追加されます。

ツールメニュー [オプション]で"ポップアップダイアログを表示する"に設定されている場合は、アラート受信時にポップアップダイアログが表示されます。

一覧のアラートをダブルクリックすることで詳細画面が表示されます。

アラートビューアは複数起動する（ファイルメニュー [新しいウィンドウを開く]）ことが可能です。

なお、2つめ以降のアラートビューアは、Read-Only モードで起動されます。



The screenshot shows the 'アラートビューア' (Alert Viewer) application window. The window title is 'アラートビューア' and the menu bar includes 'ファイル(F)', '編集(E)', '表示(V)', 'ツール(T)', and 'ヘルプ(H)'. The toolbar contains icons for file operations and a dropdown menu for 'フィルタリング設定: (なし)'. Below the toolbar are buttons for '追加', '変更', and '削除'. The main area is a table with the following columns: 概要 (Summary), チェック (Check), 状態 (Status), タイプ (Type), マネージャ (Manager), ホスト名 (Host Name), アドレス (Address), 受信時刻 (Received Time), 製品名 (Product Name), and ソース (Source). The table lists various alerts such as 'システムCPU高負荷', 'システムCPU異常高負荷', '電圧回復', 'システム温度異常高温', etc. At the bottom left, it says '全体 1000 件, 未読 373 件'. At the bottom right, there are status indicators for '情報' (Information), '警告' (Warning), and '異常' (Abnormal).

概要	チェック	状態	タイプ	マネージャ	ホスト名	アドレス	受信時刻	製品名	ソース
システムCPU高負荷		🔍	CPU	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:25	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
システムCPU異常高負荷	🔍	🔍	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:25	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
電圧回復	🔍	🔍	Voltage	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度異常高温	🔍	🔍	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位警告回復	🔍	🔍	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling
システムCPU異常高負荷回復	🔍	🔍	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
システム温度上昇	🔍	🔍	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告	🔍	🔍	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度高温回復	🔍	🔍	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:22	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告回復	🔍	🔍	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:22	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システムCPU異常高負荷	🔍	🔍	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
ファイルシステム空き容量:正常	🔍	🔍	File System	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMFSService
電源ユニット回復	🔍	🔍	RPS	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位異常回復	🔍	🔍	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling
電圧警告	🔍	🔍	Voltage	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度上昇	🔍	🔍	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システムCPU高負荷	🔍	🔍	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
電源ユニット警告	🔍	🔍	RPS	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:19	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告	🔍	🔍	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:19	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位異常	🔍	🔍	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:18	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling

• メニューバー

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) ヘルプ(H)

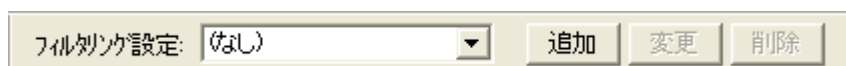
メニューバーにはアラートビューアで使用できる機能がグループ別に表示されています。それぞれの機能はドロップダウンメニューで選択できます。各メニューの説明は、「8.2.2.1 メニュー」を参照願います。

• ツールバー



アラートビューアでよく使用する機能がボタンとして表示されます。ボタンを押すことで対応した機能が実行されます。

• フィルタバー



アラートメッセージは、フィルタバー中の重要度とコンポーネントの設定によってアラートログのフィルタリングを行うことができます。

• 項目

概要	チェック	状態	タイプ	マネージャ	コンポーネント	アドレス	受信時刻	製品名	ソース	イベントID	重要度	発生時刻
----	------	----	-----	-------	---------	------	------	-----	-----	--------	-----	------

- 表示される項目は、表示メニュー [コラム]で変更することができます。各項目の詳細については、コラムヘルプに記載している項目名一覧を参照してください。
- 各項目をクリックしてアラート一覧をソートすることができます。クリックする度に昇順・降順が切り替わります。

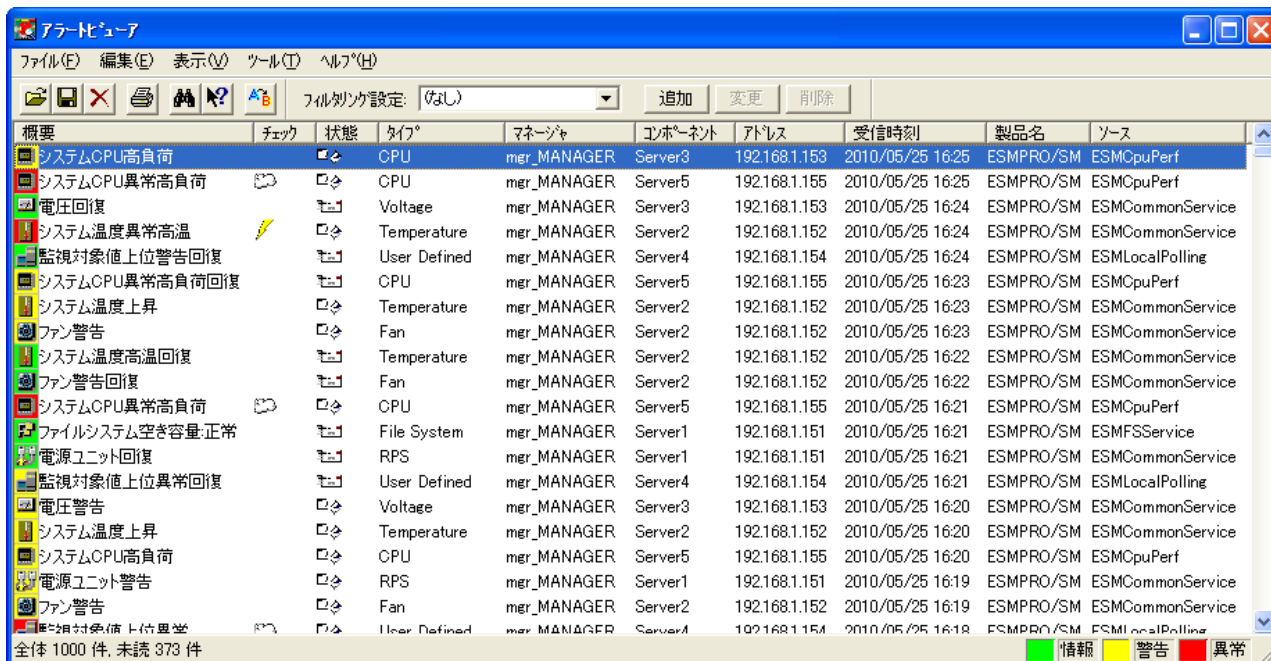
• ステータスバー



- ①アラート一覧に表示されている全体件数とアラートの詳細が読まれていない未読の件数を表示しています。
- ②各障害レベルに設定されている色を表示しています。

8.2.2 アラートログウィンドウ

アラートビューアはCMクライアントの障害、および警告を表示します。画面には以下の情報が表示されます。(新規アラートは動的にリストに追加されます。)



概要	チェック	状態	タイプ	マネージャ	ホスト/ネット	アドレス	受信時刻	製品名	ソース
システムCPU高負荷		🔴	CPU	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:25	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
システムCPU異常高負荷	☁	🔴	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:25	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
電圧回復		🟢	Voltage	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度異常高温	⚡	🔴	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位警告回復		🟢	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:24	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling
システムCPU異常高負荷回復	☁	🟢	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
システム温度上昇		🔴	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告		🔴	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:23	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度高温回復		🟢	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:22	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告回復		🟢	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:22	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システムCPU異常高負荷	☁	🔴	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
ファイルシステム空き容量正常		🟢	File System	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMFSService
電源ユニット回復		🟢	RPS	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位異常回復		🟢	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:21	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling
電圧警告		🔴	Voltage	mgr_MANAGER	Server3	192.168.1.153	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システム温度上昇		🔴	Temperature	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCommonService
システムCPU高負荷		🔴	CPU	mgr_MANAGER	Server5	192.168.1.155	2010/05/25 16:20	ESMPRO/SM	ESMCpuPerf
電源ユニット警告		🔴	RPS	mgr_MANAGER	Server1	192.168.1.151	2010/05/25 16:19	ESMPRO/SM	ESMCommonService
ファン警告		🔴	Fan	mgr_MANAGER	Server2	192.168.1.152	2010/05/25 16:19	ESMPRO/SM	ESMCommonService
監視対象値上位異常	☁	🔴	User Defined	mgr_MANAGER	Server4	192.168.1.154	2010/05/25 16:18	ESMPRO/SM	ESMLocalPolling

※項目の説明

【概要】

アイコンは、CPU、Memory、Network などのアラートのタイプを表します。

アイコンの背景色は重要度を表します。

デフォルト色は次のとおりです。

- ・ 緑- 正常 (情報メッセージ)
- ・ 灰- 不明 (アラート重要度判断不可能)
- ・ 黄- 警告 (エージェントの調査を必要とする問題)
- ・ 赤- 異常 (エージェントで発生する重大なエラー)

アラートの概要は、アイコンの右側に表示されます。

ツールメニュー [オプション]でアイコンをWindows標準アイコンに変更することができます。


オペレーションウィンドウのオプションメニュー [カスタマイズ]-[障害レベル色]で重要度を表すアイコンの色を変更することができます。


【チェック】

このコラムはユーザ用に設けられています。

ここをクリックすることで、なし/雲 ☁ / 雷 ⚡ の3つのマークを使用することができます。

[状態]

未だ読み取られていないアラートログのアイコンは開けられていない封筒  の形 をしています。

アラートログの詳細画面を表示すると、アイコンは開かれた封筒  に変わります。

[タイプ]

CPU, Memory, Network などのアラートのタイプです。

[マネージャ]

アラートの発生したサーバが属する、オペレーションウィンドウ上のマネージャ名です。

[コンポーネント]

アラートの発生したサーバ名です。

オペレーションウィンドウに登録されていないサーバからアラートを受信すると、コンポーネント名は、{不明なサーバ} になります。

表示メニュー [別名] をチェック時は、ここに別名が表示されます。

[アドレス]

アラートの発生したサーバのIPアドレス (NetWareサーバではIPXアドレス) です。

[受信時刻]

アラート受信時の日付と時間です。

[製品名]

アラートを通報してきた、エージェント側の製品の名前です。

[ソース]

アラートの送信元サービス名です。

[イベントID]

アラートのイベントIDです。

(このコラムはデフォルトの設定では表示されません。このコラムを表示するためには、表示メニュー [コラム] で表示する項目に追加します。)

[重要度]

異常、警告、および情報などのアラートの重要度です。

(このコラムはデフォルトの設定では表示されません。このコラムを表示するためには表示メニュー [コラム]で表示する項目に追加します。)

[発生時刻]

アラートの発生した日付と時間です。

発生時刻は、アラートの発生した現地の時間、またはその時間をあなたの (マネージャ側の) 時間に換算した時間で表示されます。

どちらで表示するかは、ツールメニュー [オプション]で指定することができます。

現地時間で表示する場合は、最後に現地のタイムゾーン情報がグリニッジ標準時からの時差という形で付加されます。

たとえば次の例では

1999/03/15 16:55 (-08:00)

太平洋標準時の1999年3月15日午後4時55分にアラートが発生したことを表わします。

(このコラムはデフォルトの設定では表示されません。表示メニュー [コラム]で表示する項目に追加します。)

8.2.3 メニュー

次の5種類のメニューがあります。

- 1) ファイル
- 2) 編集
- 3) 表示
- 4) ツール
- 5) ヘルプ

それぞれのメニューの機能について説明します。

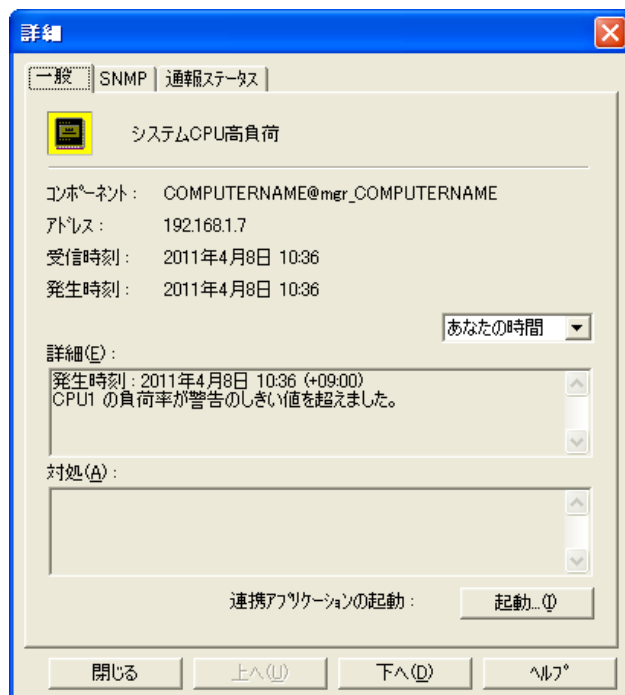
8.2.3.1 ファイルメニュー

ファイルメニューには、次のものが含まれます。

- 「ファイル」・「開く」

選択されたアラートの詳細情報ウィンドウを開きます。

① 詳細(一般タブ)



[コンピュータ]

アラートの発生したサーバ名です。

表示メニュー [別名]チェック時は、ここに別名が表示されます。

[アドレス]

アラートが発生したサーバのIPアドレス（NetWareサーバではIPXアドレス）を表示します。

[受信時刻]

アラート受信時の日付と時間です。

[発生時刻]

アラートの発生した日付と時間です。

[現地時間/あなたの時間]

発生時刻の表示方法を選択します。

現地時間

アラートの発生時刻を現地時間で表示します。

表示される時間の最後には、現地のタイムゾーン情報がグリニッジ標準時からの時差という形で付加されます。

たとえば、次の例では

1999年3月15日 16:55 (-08:00)

太平洋標準時の1999年3月15日午後4時55分にアラートが発生したことを表わします。

あなたの時間

アラートの発生時刻を現地時間で表示します。

アラートの発生時刻をあなたの（マネージャ側の）時間に換算した時間で表示します。

[詳細]

アラートの詳細情報です。

[対処]

アラートの対処です。

[起動]

関連するアプリケーションを起動します。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[上へ]

1 行上のアラートログを表示します。

[下へ]

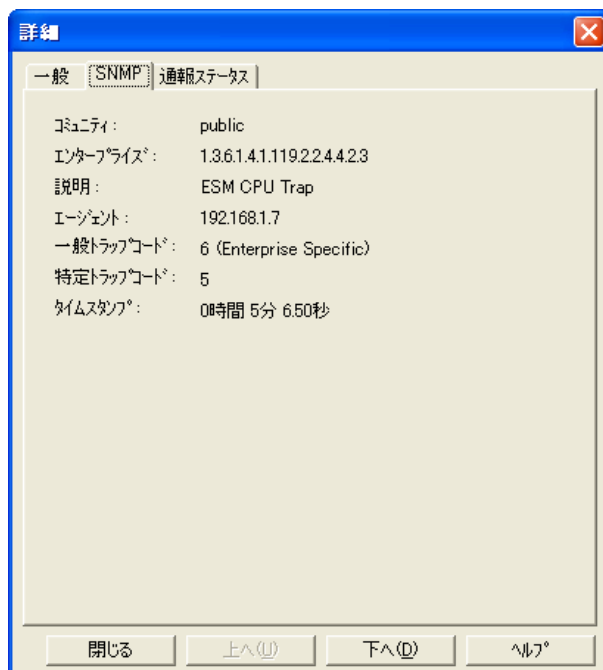
1 行下のアラートログを表示します。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

② 詳細 (SNMPタブ)

アラートログで選択されたアラートメッセージのSNMP情報を表示します。



[コミュニティ]

トラップのコミュニティです。

[エンタープライズ]

トラップのエンタープライズを表すオブジェクト識別子です。

[説明]

エンタープライズの説明です。

[エージェント]

トラップのIPアドレス (NetWareサーバではIPXアドレス) です。

[一般トラップコード]

トラップの一般トラップコードです。

[特定トラップコード]

トラップの特定トラップコードです。

[タイムスタンプ]

トラップを生成するSNMPエージェントが初期化されてからの経過時間です。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[上へ]

1行上のアラートログを表示します。

[下へ]

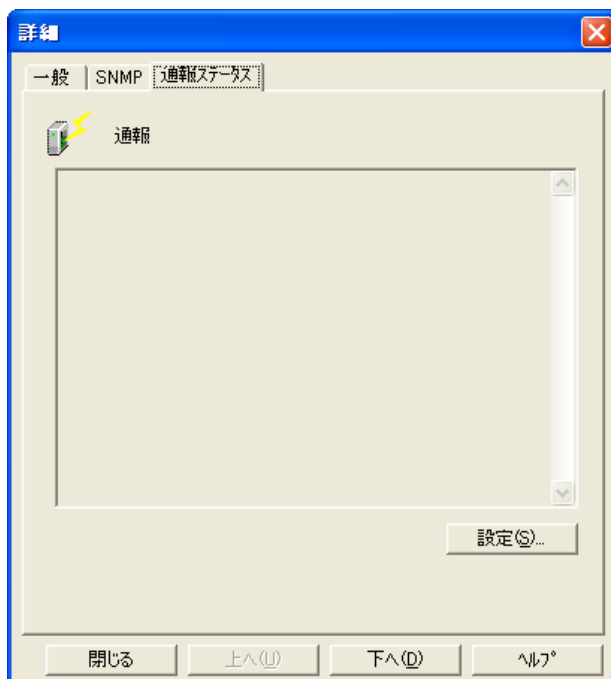
1行下のアラートログを表示します。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

③ 詳細(通報ステータスタブ)

アラートマネージャによる電子メール、FAX、ページャを介したアラート転送のステータスが格納されます。



[通報]

アラートログ転送のステータスです。

[設定]

設定ボタンを選択して通報設定を構成します。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[上へ]

1行上のアラートログを表示します。

[下へ]

1行下のアラートログを表示します。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

④ 詳細 (DMIタブ)

このアラートが DMIコンポーネントから送られたものである場合に、DMI 固有の情報を表示します。



[コンポーネントID]

イベントを送信したDMIコンポーネントのIDを表示します。

[グループ]

イベントを送信したグループのクラス文字列を表示します。

[説明]

このグループの説明を表示します。

[エージェント]

イベントを送信したサーバのアドレスを表示します。

[RPC]

イベントの送信に使用されたRPC(Remote Procedure Call)のタイプを表示します。

[トランスポート]

イベントの送信に使用されたRPC(Remote Procedure Call)のトランスポートタイプを表示します。

[言語]

イベントの言語を次のフォーマットで表示します。

language-code | territory-code | encoding

[タイムスタンプ]

イベントが発生したときの時刻を、次のフォーマットで表示します。

yyyymmddhhmmss. uuuuuu+ooo (UTC から東)

yyyymmddhhmmss. uuuuuu-ooo (UTC から西)

yyyy : 年

mm : 月

dd : 日

hh : 時

mm : 分

ss : 秒

uuuuuu : マイクロ秒

ooo : UTC (世界協定時刻) からの時差 (分)

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[上へ]

1行上のアラートログを表示します。

[下へ]

1行下のアラートログを表示します。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

- 「ファイル」・「名前を付けて保存」

選択されたアラートをテキストまたはCSVファイルとして保存します。

- 「ファイル」・「データベースに保存」

選択されたアラートをデータベースに保存します。

<データフォーマット>

先頭行へ以下の順に列を作成します。

重要度,概要,タイプ,マネージャ,コンポーネント,アドレス,受信時刻,ソース,EventID,詳細,対処

2行目以降に各列のアラートログ内容を保存します。

各列に保存可能なバイト数,1行に保存可能なバイト数(各列のバイト数の合計)は、各データベースソフトウェアの仕様に則ります。

各データベースソフトウェアの最大サポート列バイト数を超える場合は、最大サポート列バイト数まで保存します。

各データベースソフトウェアの最大サポート行バイト数を超える場合は、データベースへの保存に失敗します。

各データベースソフトウェアのHelpにてご確認ください。

注意：

- ODBCデータソースにて、TEXT(*.text,*.csv)への保存を行う場合は、予め列の定義を行う必要があります。
- ODBCデータソース設定ダイアログにて、列の定義を行って下さい。

- 「ファイル」・「印刷」

選択されたアラートを印刷します。

- 「ファイル」・「ページ設定」

プリンタの設定を表示します。

- 「ファイル」・「削除」

アラートログから選択されたアラートを削除します。

- 「ファイル」・「新しいウィンドウを開く」

アラートログから選択されたアラートを削除します。

アラートビューアを複数起動した場合、2つめ以降のアラートビューアはRead-Only モードで起動されます。


Read-Only モードで制限される機能

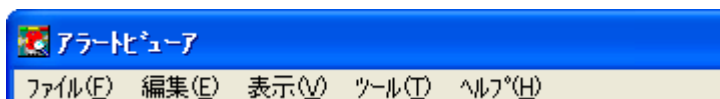
- ・アラートログの削除不可
- ・オプションダイアログで下記オプションが変更不可
 - アラート削除時に確認のダイアログを表示
 - 最大ログ件数
 - アラートドリブンのステータス管理
- ・オプションダイアログで変更した内容は保存されない


恒久的に変更したいオプションについては、標準モードのアラートビューアで変更を行ってください。

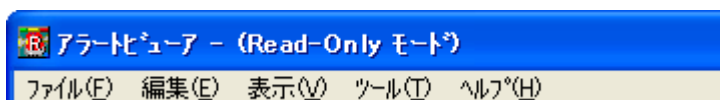
標準モードと Read-Only モードではタイトルバー、タスクバーに表示されるアイコンが異なります。

標準モードで作業を行いたい場合は、タスクバーなどから下記アイコンを選択し、標準モードのアラートビューアを表示してください。

：  標準モード



：  Read-Only モード



標準モードのアラートビューアを終了した場合は、次に起動されるアラートビューアが標準モードとなります。

アラートビューアを一つ起動するのに必要なメモリ量は、約2M～2.5M です。

(アラートログ件数により必要量が増減します。)

- **「ファイル」・「アラートパスの切り替え」**

新しくアラートビューアを起動し、同一LAN内にある他のコンピュータが管理しているアラートログを表示することができます。

アラートログファイルはアラートビューアの作業用ディレクトリ (通常は インストール先ディレクトリ¥network¥alert) 配下にありますので、参照したいコンピュータ内の上記パスをネットワーク上で共有しネットワークドライブに割り当ててください。

そしてこの機能を使ってアラートパスを切り替えれば、目的とするコンピュータ内のアラートログを参照することができます。

ただし、パスの切り替えを使って起動したアラートビューアでは、新規に受信したアラートの表示は行なわれませんので、ご注意ください。

- **「ファイル」・「アプリケーションの終了」**

アラートビューアを閉じます。

8.2.3.2 編集メニュー

編集メニューには、次のものが含まれます。

- 「ファイル」・「すべて選択」

すべてのアラートログを選択状態にします。

編集メニューから次のメニュー項目を使って、読んだこと／読まなかったことにしたり、アラートログを削除したりすることができます。

- 「ファイル」・「読んだことにする」

選択されているアラートログを読んだことにします。

状態列の封筒アイコンが  に変わります。

- 「ファイル」・「読まなかったことにする」

選択されているアラートログを読まなかったことにします。

状態列の封筒アイコンが  に変わります。

8.2.3.3 表示メニュー

表示メニューには、次のものが含まれます。

- 「表示」・「ツールバー」

この項目がチェックされると、ツールバーが表示されます。

- 「表示」・「ステータスバー」

この項目がチェックされると、ステータスバーがウィンドウの下に表示されます。

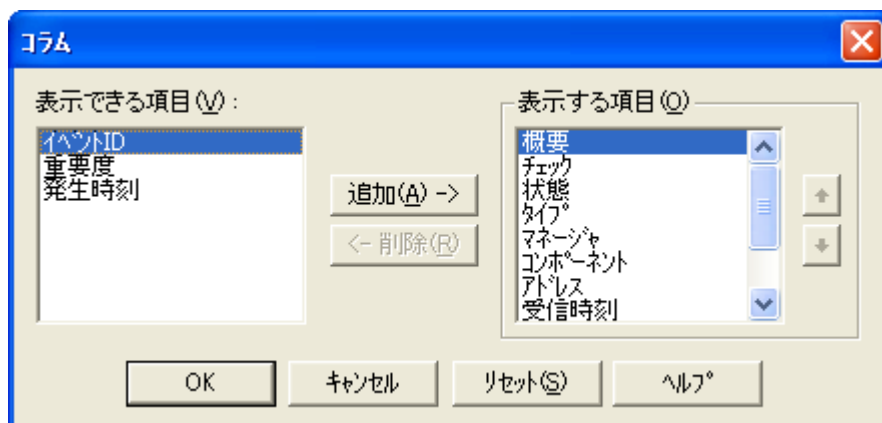
- 「表示」・「フィルタ」

この項目がチェックされると、フィルタバーが表示されます。

- 「表示」・「コラム」

コラム設定のダイアログを開きます。

コラムダイアログではアラートビューアのメインウィンドウに表示するコラムの選択や、コラムの並びなどの設定を行うことができます。



【表示できる項目】

アラートログで現在表示されていない項目リストです。

【表示する項目】

アラートログに表示する項目リストです。

【追加】

選択された項目を表示できる項目リストから表示する項目リストに移動します。

【削除】

選択された項目を表示する項目リストから表示できる項目リストに移動します。

[↑]

コラムはここで表示されている順序で画面に表示されます。
(たとえば、このリストの一番上にあるコラムはアラート一覧の左側に表示されます。)
選択した項目をリストの上に移動します。

[↓]

選択した項目をリストの下に移動します。

[OK]

設定を保存してウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

設定の変更をキャンセルしてウィンドウを閉じます。

[リセット]

設定をインストール時の状態に戻します。

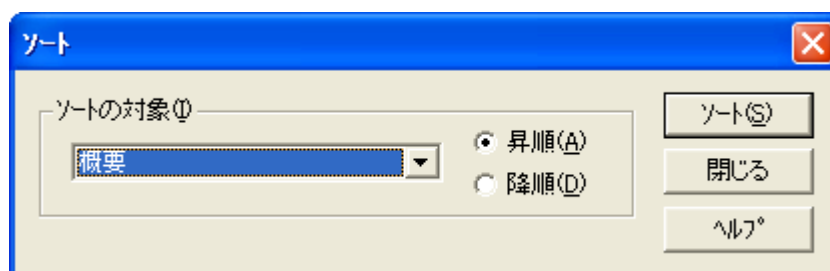
[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

● 「表示」・「ソート」

ソートウィンドウでは、アラートログ中のメッセージを表示するためのソート条件を定義します。

昇順と降順のどちらでもソートでき、どのコラムでもソート条件として使うことができます。



[ソートの対象]

ソートの対象となる項目を選択してください。

[昇順/降順]

昇順又は降順でソートします。

[ソート]

指定された条件でアラート一覧をソートします。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

コラムタイトルをクリックしてソートすることもできます。

クリックする度に昇順・降順が切り替わります。

● 「表示」・「別名」

この項目がチェックされると、コンポーネント名を別名で表示します。

マネージャ間通信のアラート転送機能により転送されたアラートについて別名表示を行う場合は、当該マネージャとマネージャ間通信が接続されている必要があります。

● 「表示」・「アラート一覧再ロード」

アラート一覧を再ロードします。

リモートよりアラートパスを指定してアラートビューアを開いている場合、リモートからの”状態”、”チェック”の変更をローカルのアラートビューアに反映する際に便利です。

ツールメニュー [オプション]でアラート一覧再ロード周期”を設定することにより、定期的のアラート一覧の再ロードを行うことも可能です。

8.2.3.4 ツールメニュー

ツールメニューには、次のものが含まれます。

- 「ツール」・「検索」

アラートログの検索を行ないます。

特定のサーバ、重要度、またはタイプのアラートを探することができます。



[重要度]

特定の重要度レベルのアラートを検索することができます。

[コンポーネント]

特定のコンポーネント名を持つアラートを検索することができます。

表示メニュー [別名]チェック時は、ここに別名が表示されます。

[タイプ]

特定のアラートタイプを持つアラートを検索することができます。

たとえば、ファンやネットワークに関するアラートを検索することができます。

[方向]

アラートログで実行される検索の方向です。

[次を検索]

指定された条件に一致するアラートログを検索し、反転表示します。

[閉じる]

ウィンドウを閉じます。

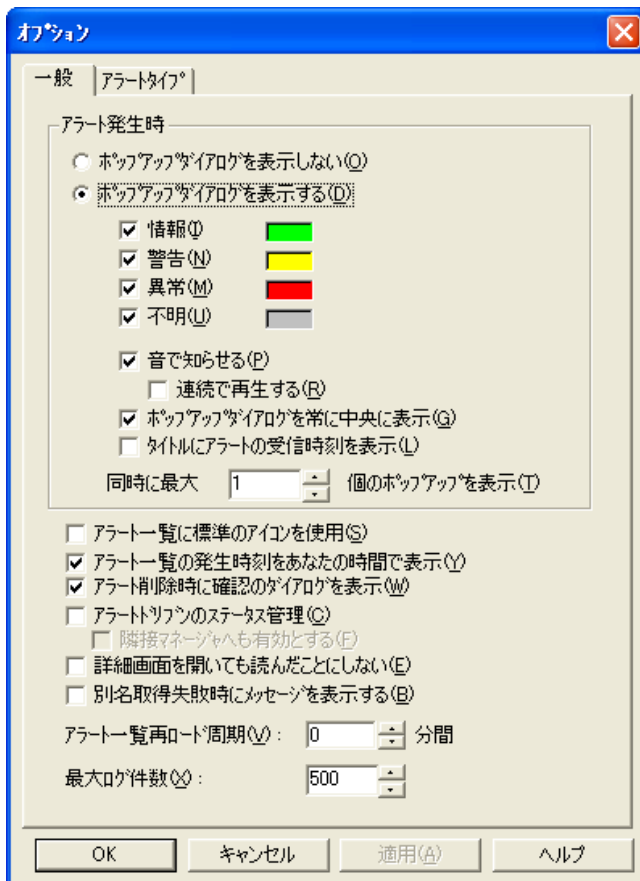
[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

- 「ツール」・「オプション」

- ① オプション(一般タブ)

アラートの発生を音で知らせる、ポップアップダイアログを表示する、などの指定や、アラートログの最大保存件数の指定を行なうこともできます。



[ポップアップダイアログを表示しない]

特定の重要度レベルのアラートを検索することができます。このオプションをチェックすることで、新しいアラート受信時にポップアップダイアログを表示しないようにできます。

ただし、この指定には関係なく、新しく受信したアラートはアラート一覧に追加されます。

[ポップアップダイアログを表示する]

このオプションをチェックすることで、新しいアラート受信時にポップアップダイアログが表示されます。

- アラートの重要度毎にポップアップダイアログを表示するかどうかを指定できます。
どの重要度もチェックされていない場合は、ポップアップダイアログは表示されません。

どのボックスがチェックされているかとは関係なく、新しく受信したアラートはアラート一覧に追加されます。

[情報] : チェックされると、情報のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

[警告] : チェックされると、警告のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

[異常] : チェックされると、異常のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します。

[不明] : チェックされると、不明のアラート受信時にポップアップダイアログを表示します

- ポップアップダイアログが表示される時のオプションを設定できます。

[音で知らせる]

チェックされていると、新しいアラート受信時にサウンドファイルが使用されます

使用しているコンピュータがサウンドファイルを使えない場合は、コンピュータのビープ音で知らせます。

連続で再生するをチェックするとポップアップ画面を閉じるまで音を繰り返します。

[ポップアップダイアログを常に中央に表示]

チェックすると、ポップアップダイアログは常にデスクトップの中央に表示されます。

[タイトルにアラートの受信時刻を表示]

チェックすると、ポップアップダイアログのタイトルに受信時刻を表示します。

[同時にN個のポップアップを表示]

同時に最大何個のポップアップダイアログを表示するかを指定します。

・デフォルト値 : 1 個

・設定範囲 : 1~40 個

[アラート一覧に標準のアイコンを使用]

チェックされていると、アラートログの概要コラムに表示されているアイコンが、次のようなWindows標準アイコンになります。

チェックされていないと、アラートタイプに応じたアイコンが表示されます。



: 情報、



: 警告、



: 異常

[アラート一覧の発生時刻をあなたの時間で表示]

チェックするとアラート一覧の発生時刻をあなたの (マネージャ側の) 時間に換算した時間で表示します。

チェックされていないと、アラート一覧の発生時刻は現地時間で表示されます。

[アラート削除時に確認ダイアログを表示]


チェックされていると、アラートの削除時に確認のダイアログが表示されます。

[アラートドリブンのステータス管理]

通常オペレーションウィンドウでは、サーバの状態はサーバへのポーリングによって管理されています。


このオプションがチェックされると、上記管理に加えてアラートもサーバの状態管理に使用されるようになります。

例として次のような状況を考えてみます。

現在、オペレーションウィンドウには、サーバ HAL が登録されており、正常な状態 ( HAL) にあります。

そこに HAL に対して 3 件のアラートが発生したとします。



概要	チェック	状態	受信時刻	コンポーネント
 ファイルシステム空き容量:正常	<input type="checkbox"/>		2011/05/23 15:06	HAL
 ファイルシステム空き容量:異常	<input type="checkbox"/>		2011/05/23 15:05	HAL
 ファイルシステム空き容量:警告	<input type="checkbox"/>		2011/05/23 15:03	HAL


この時、もっとも重要度の高いアラートがサーバの状態に反映されるため、HALは異常な状態 ( HAL) になります。


* 情報のアラートはアラートドリブンのステータス管理に一切影響を及ぼしません。

* 警告のアラートはサーバの状態を警告、異常のアラートはサーバの状態を異常にします。

異常アラートの詳細画面を開くか、編集メニュー [読んだことにする]を選択して既読状態にすると、このアラートはサーバの状態色に影響を及ぼさなくなります。

概要	チェック	状態	受信時刻	コンポーネント
 ファイルシステム空き容量:正常			2011/05/23 15:06	HAL
 ファイルシステム空き容量:異常			2011/05/23 15:05	HAL
 ファイルシステム空き容量:警告			2011/05/23 15:03	HAL

この時、サーバの状態色に影響を及ぼすアラートの中でもっとも重要度の高いものは警告のアラートになるので、HAL の状態は警告 ( HAL)になります。

次に警告のアラートを読むと、HAL の状態は正常 ( HAL)に戻ります。

※この時、ポーリングによるサーバの状態がたとえば警告である場合は HAL は警告の状態にしかならないことに注意してください。

アラートの削除もまた、アラートを読む (あるいは読んだことにする) のと同じ効果を持ちます。

編集メニュー [読まなかったことにする]を選択すると、そのアラートはまたサーバの状態色に影響をおよぼすようになります

[隣接マネージャへも有効とする]

チェックするとマネージャ間通信のイベント転送にて転送された他マネージャのアラートに対してもアラートドリブンのステータス管理が有効になります。

注意:

- ▶ 対象とする隣接マネージャのマネージャ間通信のアクセス権設定において、本オプションを有効に設定するマネージャへの書き込み権限が必要です。
書き込み権限は、オペレーションウィンドウ オプションメニュー [カスタマイズ]-[隣接マネージャ] より開く隣接マネージャ画面 [アクセス権] タブにて設定します。
- ▶ ルーティング機能を使用して直接マネージャ間通信を行っていないマネージャを管理対象とする場合は、マネージャ間通信のルーティング設定が相互に必要です。
ルーティングは、オペレーションウィンドウ オプションメニュー [カスタマイズ]-[隣接マネージャ] より開く隣接マネージャ画面 [ルーティング] タブにて設定します。
- ▶ 本オプションを有効に設定することにより複数のマネージャよりアラートドリブンのステータス管理機能が動作する場合は、アラートドリブンのステータス管理機能が動

作するすべてのマネージャのアラートビューアにおいて状態色に影響を及ぼすアラートを既読もしくは削除するまで状態色は正常に戻りません。

[詳細画面を開いても読んだことにしない]

チェックされていると、詳細画面を開いても"状態"を読んだこととしません。
"状態"を読んだこととしたい場合は、編集メニュー [読んだことにする]を使用してください。

通常はアラートの詳細を見ることによりアラートの状態が既読となります。
アラートドリブンのステータス管理を行っている場合は、アラートの状態が既読となった場合は、アラートドリブンのステータスが解除されます。
サーバ管理者が障害が復旧した事を確認したうえで、状態を既読としたい場合に便利な機能です。

[別名取得失敗時にメッセージを表示する]

別名表示で使用する"別名"は、オペレーションウィンドウの各コンポーネントのプロパティで設定されている別名をアラートログ一覧ロード時に取得します。

マネージャ間通信のアラート転送機能により転送されたアラートについて別名表示を行う場合は、当該マネージャとマネージャ間通信が接続されている必要があります。

マネージャ間通信が接続されていない場合、またはマネージャ間通信の設定自体が削除されている場合などは別名取得ができません。

この時にエラーメッセージを表示するかどうかをここで設定します。

マネージャ間通信が接続されていないことが原因の場合は、マネージャ間通信を接続状態として、表示メニュー [アラート一覧再ロード] を行うと別名表示が可能となります。

[アラート一覧再ロード周期]

アラート一覧を定期的に再ロードする際の周期を設定します。

・デフォルト値 : 0(定期的再ロードを行わない)

・設定範囲 : 0~10080分間、または0~168時間

※ 0を指定するとアラート一覧の定期的再ロードを行いません

注意:

➤ アラートビューアを再起動した場合は、再起動前に経過していた時間は考慮されません。

再ロード周期を60分間と設定していた場合は、アラートビューア再起動後60分後に再ロードが行われます。

- リモートよりアラートパスを指定してアラートビューアを開いている場合、リモートからの"状態"、"チェック"の変更はローカルのアラートビューアに反映されません。アラート一覧を再ロードすることによりリモートからの変更をローカルのアラートビューア上に反映させることが可能です。
- アラートドリブンのステータス管理を行っている場合は、アラートの"状態"によりアラートドリブンのステータスが設定／解除されます。リモートからアラートドリブンのステータスを変更したい場合などに便利な機能です。

[最大ログ件数]

保存することのできる、最大のアラート件数です。

- ・デフォルト値 : 500 件
- ・設定範囲 : 1~1,000 件

注意:

- アラートログの現在の件数は、ここに入力する最大ログ件数よりも少なくなければなりません。現在の件数より少ない件数に変更する場合は、アラートログを削除後、設定してください。

[OK]

設定を保存してウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

ウィンドウを閉じます。

[適用]

このダイアログボックスを開いたまま、すべての変更内容が保存されます。アラートタイプタブの変更も同時に保存されます。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

② オプション(一般タブ)

各アラートタイプに、.wavファイルを指定します。

ここで指定する.wavファイルはポップアップダイアログが表示されるときに再生されます。



[登録されているアラートタイプ]

このリストには登録されているアラートタイプの一覧が表示されます。

このリストを編集することはできません。

アラートタイプに任意のサウンドファイルを割り当てるためには、リストでアラートタイプを選択し、参照ボタンをクリックして、サウンドファイルを選択してください。

[アラートタイプ詳細]

[サウンド]

選択されているアラートタイプに割り当てる.wavファイルを選択します。

リストにない.wavファイルを使用したい場合は、参照ボタンよりファイルを選択します。

[再生]

.wavファイルの再生を行います。

[停止]

.wavファイルの再生を停止します。

[参照]

.wavファイルの参照用のダイアログを表示します。

[リセット]

設定をインストール時の状態に戻します

[OK]

設定を保存してウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

ウィンドウを閉じます。

[適用]

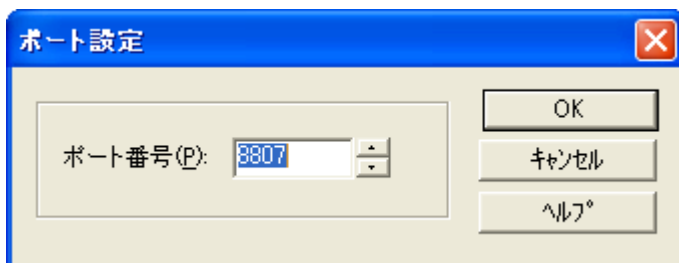
このダイアログボックスを開いたまま、すべての変更内容が保存されます。
アラートタイプタブの変更も同時に保存されます。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

● 「ツール」・「ポート設定」

アラートビューアで使用するポートの設定を行います。
設定変更後は、システムのシャットダウン/再起動が必要です。



[ポート番号]

アラートビューアで使用するポートを指定します。
デフォルトは、8807 です。
5001 から 65535 まで設定可能です。

[OK]

設定を保存してウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

設定の変更をキャンセルしてウィンドウを閉じます。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

注意:

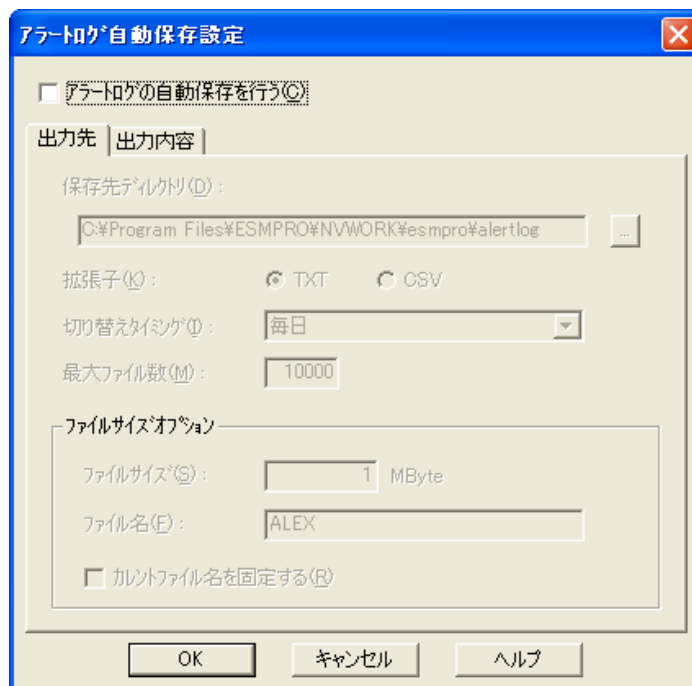
- 他のアプリケーションで使用しているポート番号を指定すると、アラートビューアが正常に使用できなくなります。他のアプリケーションで使用しているポート番号と重複がないことを確認の上で、設定変更を行ってください。
オペレーションウィンドウでは、デフォルトでポート:8806 を使用しています。

● 「ツール」・「アラートログ自動保存設定」

① アラートログ自動保存設定(出力先タブ)

アラートログ自動保存機能は、受信したアラートを任意のディレクトリにCSV形式で出力します。

出力先タブでは、ファイルの出力規則を設定します。



[アラートログ自動保存を行う]

アラートログ自動保存機能の有効・無効を設定します。
チェックすることで本機能が有効になります。

[保存先ディレクトリ]

出力ファイルの保存先ディレクトリを直接入力したり、入力欄右の補助ボタンをクリックして指定してください。

既定値 : <インストール先ディレクトリ>%NWORK%esmpro%alertlog

注意 :

➤ 保存先ディレクトリにネットワークドライブを指定することはできません。

[拡張子]

出力ファイルの拡張子を選択してください。

[切り替えタイミング]

出力ファイルを切り替えるタイミングを選択してください。

既定値 : 毎日

設定項目 : 毎日 / 毎週 / 毎月 / 指定したサイズに到達した時 / 切り替えない

■ 時期指定(毎日/毎週/毎月)の場合

指定した時期でファイルの切り替えが行われます。

例えば、毎日を指定するとファイルが毎日切り替り、新規にファイルが作成されます。

動作の詳細については、出力イメージ 1を参照ください。

注意 :

➤ 毎日を指定で、1日で1件もアラートを受信しなかった場合、その日のファイルは作成されません。
毎週、毎月を指定した場合でも同様です。

以下の命名規則でファイル名が作成されます。

[毎日]

ALyymmdd.txt/csv

2012年1月30日のログファイルはAL120130.txt/csvとなります。

[毎週]

ALyymmNw.txt/csv

(Nは、第1週 N=1 第2週 N=2 ... 第5週 N=5 となります。日曜0:00 - 土曜23:59 でその週のログファイルが作成されます。)

2012年1月 第2週のログファイルはAL12012w.txt/csvとなります。

[毎月]

ALyymm.txt/csv

2012年1月のログファイルはAL1201.txt/csvとなります。

■ 指定したサイズに到達した時

[ファイルサイズオプション]が有効になり、オプションの設定に従って切り替えが行われます。

■ 切り替えない

ALLOG.txt/csv のファイル名で出力され、ファイルの切り替えは行われません。

一つのファイルで管理する場合に指定してください。

[最大ファイル数]

管理する出力ファイルの最大数を指定してください。

ファイル数が最大数を超えた場合は、古いファイルから削除されます。

既定値 : 10000 設定範囲 : 1~10000

切り替えタイミングで“切り替えない”を選択時は設定できません。

[ファイルサイズオプション]

切り替えタイミングで“指定したサイズに到達した時”を選択時に有効になります。

[ファイルサイズ]

ファイルを切り替えるサイズを指定してください。

指定したファイルサイズでファイルの切り替えが行われます。

既定値 : 1 Mbyte 設定範囲 : 1~999999999 Mbyte

[ファイル名]

出力するファイル名を指定してください。

既定値 : ALEX

Windowsのファイル命名規則に従って250文字以内で指定してください。

[カレントファイルを固定する]

チェックなし(既定値) :

カレントファイル名はファイル名に管理番号(0~9999)を付随したものになり、切り替えのタイミングでカレントファイル名が切り替わります。

動作の詳細については、出力イメージ 2を参照ください。

チェックあり：

カレントファイル名はファイル名固定で出力され、切り替えのタイミングでファイル名に管理番号(0001～9999)が付随されバックアップされます。動作の詳細については、出力イメージ 3を参照ください。

[OK]

設定内容を保存し、ダイアログを終了します。

[キャンセル]

設定内容を保存せず、ダイアログを終了します。

[ヘルプ]

ヘルプを起動します。

※出力イメージ

■ 出力イメージ 1

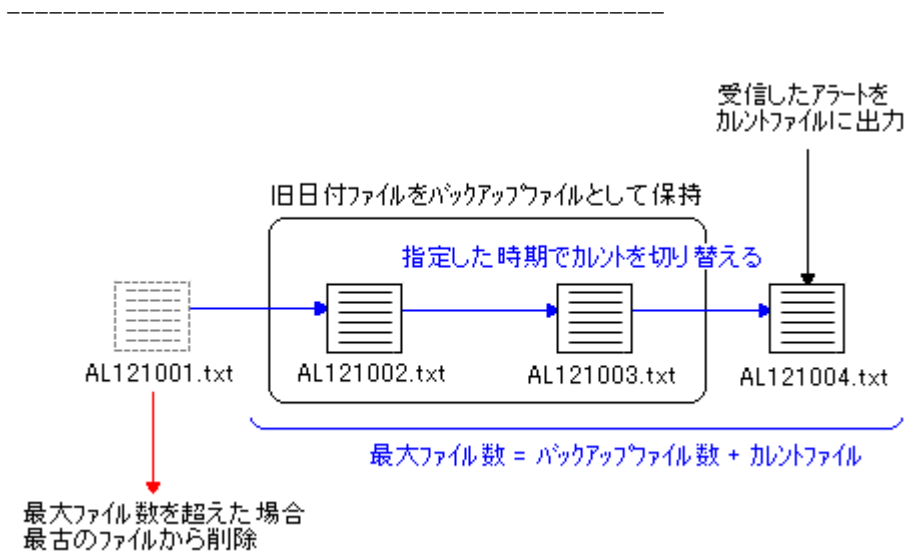
[設定]

切り替えタイミング：毎日

最大ファイル数：3

拡張子：txt

設定時の日付：2012年10月01日



1. 受信したアラートをカレントファイル AL121001.txt に出力する

2. 日付が変わって最初の受信したアラートを出力するタイミングでカレントファイルを切り替える

AL121001.txt -> AL121002.txt -> AL121003.txt -> AL121004.txt

3. カレントファイルを AL121004.txt に切り替えたタイミングでファイル数は 4 となり、最大ファイル数を超えるため、最古のファイルである AL121001.txt を削除する

■ 出カイメージ 2

[設定]

切り替えタイミング : 指定したサイズに到達した時

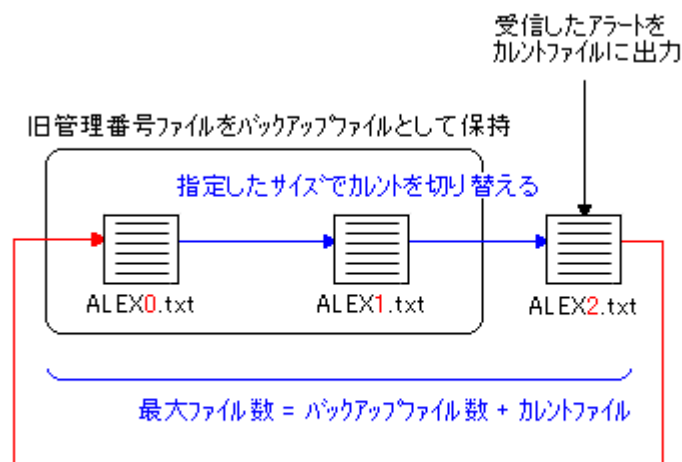
最大ファイル数 : 3

拡張子 : txt

ファイルサイズ : 1 MByte

ファイル名 : ALEX

カレントファイル名を固定する : チェックしない



最大ファイル数に達したら次の加外ファイルの管理番号は0に戻る
加外ファイルの切り替え時に既に管理番号のファイルが存在する場合は上書きする

1. 受信したアラートをカレントファイル ALEX0.txt に出力する
 2. ファイルサイズが1MByteを超える場合、カレントファイルを切り替える
ALEX0.txt -> ALEX1.txt -> ALEX2.txt
 3. ALEX2.txt のファイルサイズが1MByteを超える場合、最大ファイル数が 3 に達しているため、ALEX0.txt に切り替える
- 以降 1 - 3 繰り返し

■ 出カイメージ 3

[設定]

切り替えタイミング：指定したサイズに到達した時

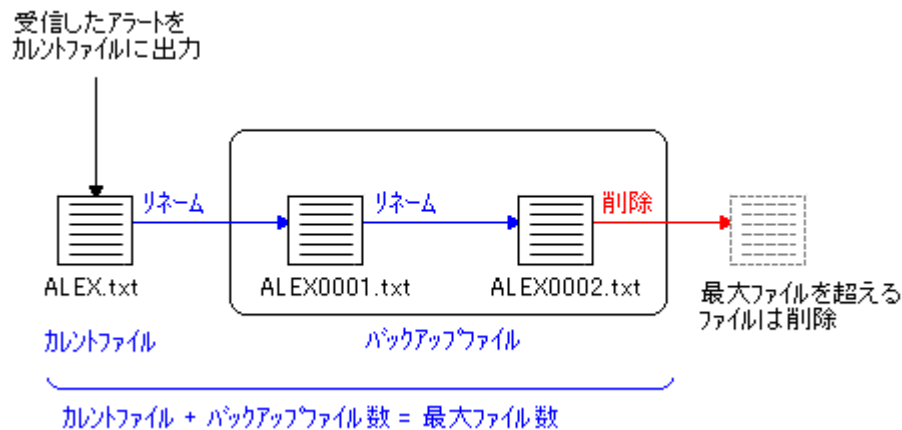
最大ファイル数：3

拡張子：txt

ファイルサイズ：1 MByte

ファイル名：ALEX

カレントファイル名を固定する：する



1. 受信したアラートをカレントファイル ALEX.txt に出力する
 2. ファイルサイズが1MByteを超える場合、カレントファイル名をバックアップファイル ALEX0001.txt にリネームする
 3. ALEX.txt を新規に作成して受信したアラートを出力する
 4. 次にファイルサイズが1MByteを超える場合は以下のようにリネームする
 - ALEX0001.txt を ALEX0002.txt にリネーム
 - カレントファイル ALEX.txt をバックアップ ALEX0001.txt にリネーム
 5. ALEX.txt を新規に作成して受信したアラートを出力する
 6. 次にファイルサイズが1MByteを超える場合は以下のようにリネームする
 - ALEX0002.txt は最大ファイル数 3 を超えるため削除
 - ALEX0001.txt を ALEX0002.txt にリネーム
 - カレントファイル ALEX.txt をバックアップ ALEX0001.txt にリネーム
 7. ALEX.txt を新規に作成して受信したアラートを出力する
- 以降 6 - 7 繰り返し

注意:

- 本機能は、受信したすべてのアラートを残すことを目的としており、出力ファイルをアラートビューアで表示・編集することはできません。出力ファイルはテキストエディタなどで参照ください。
- 出力ファイルを参照する場合は、ファイルの排他制御を行わないよう注意してください。
- 出力ファイルを移動または、削除することは可能です。移動または、削除する場合にサービスの停止等は不要です。
移動または、削除で出力先にファイルがなくなった場合は、新規アラート受信時に新たにファイルが作成されます。
- 以下の変更を行った場合は、新規アラート受信時に変更前に出力されていたすべての出力ファイルの拡張子を“.bakN”に変更します。(Nは、一意な数字となります。)
[切り替えタイミング]
[最大ファイル数]
[カレントファイルを固定する]
例えば、[ファイル名の切り替え]を“毎日”から“毎週”に変更した場合は、変更後アラートを受信した時点で既に出力されているファイルの拡張子を“AL120101.bak1”，“AL120102.bak1”へ変更し、毎週の命名規則で“AL12011w.txt”の出力ファイルが新たに作成されます。

- **「ツール」・「通報の設定」**

通報の設定を行うために、アラートマネージャを起動します。

- **「ツール」・「起動」**

選択されているアラートに関連したアプリケーションを起動します。

8.2.3.5 ヘルプメニュー

ヘルプメニューには、次のものが含まれます。

- **「ヘルプ」・「トピックの検索」**

トピックの検索を行います。

- **「ヘルプ」・「バージョン情報」**

アラートビューアのバージョン情報です。

8.2.4 ツールバー

ウィンドウの上にあるツールバーのボタンを押すと、各機能へ簡単にアクセスできます。



実行できる機能は以下のとおりです。



開く

選択したアラートログの詳細画面を開きます。



名前を付けて保存

選択されているアラートをCSV形式のテキストとして保存します。



削除

アラートログから選択されたアラートを削除します。



印刷

アラートログを印刷します。



検索

特定の検索条件を満たすアラートログを検索します。



ヘルプ

コンテキストセンシティブヘルプモードに入ります。

アイコンが?の形に変化しますので、アラートビューアのヘルプを表示したい部分をクリックしてください。



別名

このボタンが押されると、コンポーネント名を別名で表示します。

マネージャ間通信のアラート転送機能により転送されたアラートについて別名表示を行う場合は、当該マネージャとマネージャ間通信が接続されている必要があります。

8.2.5 フィルタバー

フィルタの設定をおこなうことにより、アラートビューアの一覧表示をフィルタリングすることができます。

フィルタバーが表示されていない場合は、表示メニューのフィルタをチェックすることで表示されます。



[フィルタリング設定]

ここで、フィルタを選択することによりアラート一覧のフィルタリングが開始されます。

[追加]

フィルタリング設定ダイアログを開き、フィルタの追加を行います。

[変更]

フィルタリング設定ダイアログを開き、フィルタの変更を行います。

[削除]

フィルタリング設定のリストボックスで選択されているフィルタを削除します。

注意:

- 複数のアラートビューアで同一のフィルタを使用してフィルタリングを行っている際に、あるアラートビューアでこのフィルタを変更した場合は、新しいフィルタをその他のアラートビューアで有効にするために、フィルタバーにてフィルタを再度選択し直す必要があります。
- 本機能は、アラートビューアの一覧表示をフィルタリングするための機能となります。特定のアラートを受信しないように設定したい場合は、オペレーションウィンドウのツールメニューより受信アラートフィルタを設定してください。

8.2.5.1 フィルタリング設定

アラートビューアの一覧表示をフィルタリングするための条件を設定します。

フィルタリング条件として設定不要の項目については、"(フィルタしない)" を選択します。
作成したフィルタリング条件を使用するには、フィルタバーのフィルタリング設定ドロップダウンリストよりフィルタ名を選択してください。

フィルタリング設定

フィルタ名(F):

フィルタ種別
 表示(V) 非表示(X)

フィルタリング条件

アドレス(A): (フィルタしない)

エンドポイント(C): (フィルタしない)

別名(L): (フィルタしない)

マネージャ(M): (フィルタしない)

イベントID(E): (フィルタしない)

ソース(U): (フィルタしない)

概要(G): (フィルタしない)

重要度
 情報(I) 警告(W)
 異常(B) 不明(Z)

タイプ(Y): (フィルタしない)

製品名(P): (フィルタしない)

チェック(H): (フィルタしない)

状態(T): (フィルタしない)

受信時刻
 開始(R): 2007/03/26 05:55:08
 終了(D): 2011/04/26 15:54:51

発生時刻
 開始(K): 2007/03/26 05:54:27
 終了(Q): 2011/04/26 15:54:51

新規受信アラートにもフィルタリングを適用(N)

OK キャンセル ヘルプ

[フィルタ名]

フィルタ名を指定します。

ここで指定したフィルタ名が、フィルタバーのフィルタリング設定のドロップダウンリストで表示されます。

入力できる文字列は、半角63文字までのファイル名として使用できる文字です。

[フィルタ種別]

フィルタする種別を選択します。

[アドレス]

フィルタリング条件として、アラートが発生したサーバのIPアドレス、またはIPXアドレスを指定します。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[コンポーネント]

フィルタリング条件として、アラートの発生したサーバ名を指定します。

入力できる文字列は、63文字以内の英数文字列です。

ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)も使用することができます。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[別名]

フィルタリング条件として、アラートの発生したサーバの別名を指定します。

入力できる文字列は、255文字以内の任意の文字列です。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[マネージャ]

フィルタリング条件として、アラートの発生したサーバが属する、オペレーションウィンドウ上のマネージャ名を指定します。

入力できる文字列は、63文字以内の英数文字列です。

ハイフン(-)、アンダーバー(_)、ドット(.)も使用することができます。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[イベントID]

フィルタリング条件として、アラートのイベントIDを指定します。

10進数、または16進数で指定します。

注意: 16進数で指定する場合は、先頭に 0x を付加します。

例) 10進数 : "256" 16進数 : "0x100"

[ソース]

フィルタリング条件として、アラートの送信元サービス名を指定します。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[概要]

フィルタリング条件として、アラートの概要を指定します。

ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[重要度]

フィルタリング条件として、重要度を指定します。

すべての項目にチェック有りの場合と、すべての項目にチェック無しの場合は、フィルタしません。

[タイプ]

フィルタリング条件として、アラートのタイプ(CPU, Memory, Network など)を指定します。ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[製品名]

フィルタリング条件として、アラートを通報してきた、エージェント側の製品の名前を指定します。ワイルドカード文字(*,?)が使用可能です。

[チェック]

フィルタリング条件として、チェックを指定します。

[状態]

フィルタリング条件として、状態を指定します。

[受信時刻]

フィルタリング条件として、受信時刻を指定します。

デフォルト値は、下記のとおりです。

開始時刻：現在保存しているアラートログの発生時刻情報で最も古い時刻

終了時刻：現在時刻指定する開始時刻は、終了時刻より前の時刻

[発生時刻]

フィルタリング条件として、発生時刻を指定します。

デフォルト値は、下記のとおりです。

開始時刻：現在保存しているアラートログの発生時刻情報で最も古い時刻

終了時刻：現在時刻指定する開始時刻は、終了時刻より前の時刻

[新規受信アラートにもフィルタリングを適用]

設定したフィルタリング条件を新規アラートにも適用するかどうかを指定します。

チェックされていない場合は、新規受信アラートに対してフィルタリング条件が適用されずに全てのアラートが一覧に表示されます。

チェックされている場合は、新規受信アラートについてもフィルタリング条件が適用されます。

新規アラート受信時にポップアップダイアログを表示するよう設定している場合は、

本チェックボックスの指定によりポップアップダイアログ表示にもフィルタリングが行われます。

[OK]

設定を記録してウィンドウを閉じます。

[キャンセル]

設定の変更をキャンセルしてウィンドウを閉じます。

[ヘルプ]

オンラインヘルプを表示します。

8	統合ビューア	8-1
8.1	オペレーションウィンドウ	8-1
8.1.1	画面説明	8-1
8.1.2	メニュー	8-3
8.1.3	ツールバー	8-52
8.1.4	オペレーションウィンドウの基本操作	8-56
8.2	アラートビューア	8-83
8.2.1	画面説明	8-83
8.2.2	アラートログウィンドウ	8-85
8.2.3	メニュー	8-88
8.2.4	ツールバー	8-117
8.2.5	フィルタバー	8-118
	オペレーションウィンドウ	8-1
	統合ビューア	8-1